PLATEAU
by MLIT

Handbook of 3D City Models

3D都市モデル導入のためのガイドブック

PLATEAU Guidebook

PLATEAU 初学者のためのガイドブック

2020年にスタートしたPLATEAUは、多くの地方公共団体や民間企業、多様な研究者、エンジニア、クリエイターらが参加するプラットフォームとして成長を続けている。

都市のマネジメント、都市機能の集約、サステナブルなまちづくりーー。
PLATEAUを基盤としたまちづくりのデジタル・トランスフォーメーションは社会や地域の課題を解決する。

既存のデータから3D都市モデルを生成することで、これからの時代に必要な都市の可能性が見えてきた。データをオープンにしているからこそ、知恵の共有や新しいアクションが広がっていく。

都市の情報は統合・可視化されることで、
これからの社会にとって意味のある情報に変わる。
3D都市モデルは来るべきSociety5.0の基盤になるだろう。

それは、持続可能で誰もが住みやすく、参加可能な社会づくりの始まりである。

Map the New World.
PLATEAUは新しい世界を創る。

PLATEAUが目指す未来

私たちの暮らす都市は、日々刻々と変化を続けている。新しいビルが建設され、道路が整備され、公園が造られ、そして人々の営みによって街並みは常に進化を遂げている。この複雑で動的な都市空間を理解し、より良い未来の都市づくりを実現するために、デジタル技術を活用した新しいアプローチとして、デジタル・インフラとなる都市のデジタルツインが求められている。

Project PLATEAUは、デジタル技術により豊かな生活、多様な暮らし方・働き方を支える「人間中心のまちづくり」の実現をめざす「まちづくりDX」のデジタル・インフラとしての役割を果たすことを目指している。3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を進めることで、まちづくりのDXを実現し、オープン・イノベーションを創出していく。

本書の構成と使い方

本書は、PLATEAUと3D都市モデルについて、これから学び始める方々向けに、基礎から実践的な活用方法までを分かりやすく解説することを目的としている。
デジタル技術の進歩は日進月歩であり、3D都市モデルの世界も常に進化を続けている。本書が、皆様のPLATEAUおよび3D都市モデルへの理解を深め、新しい価値創造への第一歩となれば幸いである

《本編》　PLATEAUのビジョンと取り組みの全体像をクイックに知ることができるドキュメント

1	PLATEAUとは	PLATEAUの概要・背景、目指す姿・ビジョン
2	3D都市モデルとは	3D都市モデルに関する基礎知識
3	3D都市モデルの使い方を知る	3D都市モデルの提供価値とその活用方法
4	PLATEAUの取り組みを知る	PLATEAUの活動を知るきっかけとなる情報
5	PLATEAUに参加する	PLATEAUの活動・コミュニティに参加する方法
6	リンク集	PLATEAU・3D都市モデルをより深く知るための各種リンク

《付録》　これまでのPLATEAUの歩みや技術的な情報を詳細に取りまとめたドキュメント

1	技術資料	エンジニアやデータ整備事業者向けの技術資料
2	チュートリアル	PLATEAU VIEWとPLATEAU SDKの使い方チュートリアル
3	有識者インタビュー	様々な有識者への3D都市モデルの展望に関するインタビュー
4	活動アーカイブ	これまでのProject PLATEAUの活動の記録

初学者の方は、順を追って読み進めることを勧めるが、既に3D都市モデルについての基礎知識をお持ちの方は、関心のある章から読み始めて構わない。

目次

1. PLATEAUとは 5
1.1. PLATEAUとは何か 6
1.2. PLATEAUのビジョン 7
2. 3D都市モデルとは 9
2.1. 3D都市モデルとは何か 10
2.2. 3D都市モデルの4つの特徴 11
3. 3D都市モデルの使い方を知る 19
3.1. 3D都市モデルの提供価値 20
3.2. 3D都市モデルの活用領域 20
4. PLATEAUの取り組みを知る 26
4.1. PLATEAUの最新情報を知る 27
4.2. 3D都市モデルを触ってみる 30
4.3. 3D都市モデルを入手する 32
4.4. PLATEAUの成果を使ってみる 33
5. PLATEAUに参加する 36
5.1. PLATEAUコンソーシアムへの参画 37
5.2. PLATEAUイベントへの参加 41
5.3. Project PLATEAUへの参画 46
6. PLATEAUリンク集 48
6.1. 3D都市モデル導入のためのガイドブック 49
6.2. PLATEAU公式ツール 51
6.3. PLATEAUその他リンク 55

1. PLATEAUとは

1.1. PLATEAUとは何か

PLATEAUは、国土交通省が中心となり、産学官の様々なプレイヤーと連携して推進する、日本全国の都市デジタルツイン実現プロジェクトである。

都市活動のプラットフォームデータとして3D都市モデルを整備し、様々な領域でユースケースを開発しています。さらに、誰もが自由に都市のデータを引き出せるよう、3D都市モデルをオープンデータとして提供している。PLATEAUは、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を進めることで、まちづくりのDXを実現し、オープン・イノベーションの創出を目指す。

フランス人哲学者のジル・ドゥルーズと精神分析家フェリックス・ガタリの著書「千のプラトー｜Mille Plateaux」では、はじめでも終わりでもない精神の結節点をプラトー（高原・台地）と呼ぶ。プラトーは、一つの頂上を目指す統一的構造ではなく、多様で自律・分散的なシステムが平面的に接続・連続することで強靭性を獲得していく哲学的な実践であるとされている。

3D都市モデルは、データの拡張性と連携性の高さにより、あらゆる分野において自律的・分散的・脱中心的価値の結び付きを惹起し、それぞれのプレイヤーが自らを中心にソリューションを思考・実装することが可能な結節点としての機能を有するアーキテクチャである。

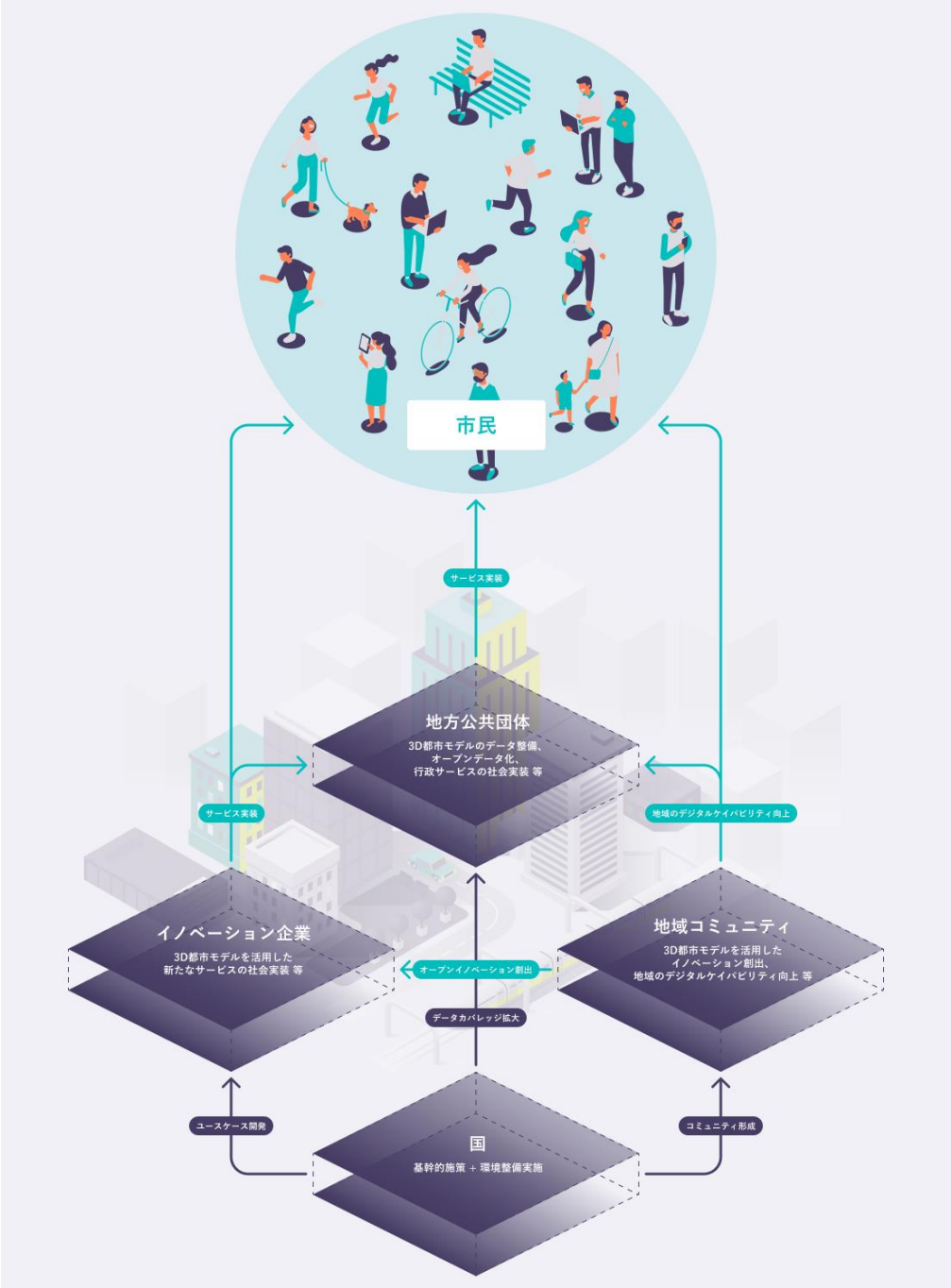
3D都市モデルが社会に無数の結節点を提供し、これを契機にあらゆる分野がサイバー空間を介して相互につながり発展していく―― PLATEAUというネーミングには、ドゥルーズとガタリが「千のプラトー」で期待したような、自律的で強靭な世界の発展への期待が込められている。

1.2. PLATEAUのビジョン

都市デジタルツインにより社会に新たな価値をもたらす/地域の課題を解決する

PLATEAUは、デジタル技術により「豊かな生活、多様な暮らし方・働き方を支える「人間中心のまちづくり」の実現をめざす「まちづくりDX」のデジタル・インフラとしての役割を果たすことを目指している。

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化が自律的に発展していく「エコシステム」の構築を目指している。そのため産学官の各プレイヤーがそれぞれの施策を実行する役割を担い、国をはじめとする主体が連携する推進体制を構築している。エコシステムの持続的な発展のための基盤を整え、多様な主体の参画を促している。



Project Partners

PLATEAUの取り組みのうち、国土交通省が主導するProject PLATEAUは、幅広い分野の専門家たちとフラットかつ横断的に協業している。（2025年3月末時点、50音順）

国土交通省
UDC Initiative
株式会社INA新建築研究所
i-Transport Lab. Co.,Ltd.
accenture
朝日航洋株式会社
アサミ情報システム株式会社
アジア航測株式会社
ADAWARP
addlight
AnotherBrain
ALTAIR
株式会社アルモ
xpd
CTC
INFO LOUNGE
株式会社ウエスコ
ANA NEO
esriジャパン
NTT InfraNet
NEC
docomo
MRI エムアール・アイ リサーチアソシエイツ
MA
HEXAGON
KSC
鹿島
角川アスキー総合研究所
CAD CENTER
キャドテクニカルサポート株式会社
九州工業大学
gluon
SDM
KDDI
KDDI Agile Development Center
IBS 計量計画研究所
建設技術研究所
構造計画研究所
Code for Japan
国際航業
CYBERNET
JR東日本建築設計
JR東日本コンサルタンツ株式会社
JTB
JTB総合研究所
JPGAMES
S:gn:te
SYNESTHESIAS
AIGID
Jriss
SYMMETRY DIGITAL TWIN CLOUD
STYLY
SPACEDATA
SECOM
SENSYN ROBOTICS
ZENRIN
SoftBank
大成建設
まちづくり協議会
Takram
竹中工務店
DataLabs
東急
東急不動産
東京海上日動
東京都立大学
TOHO LÉO
TOPPAN
TORUS
株式会社トーセ
Trajectory
NAKANIHON AIR
名古屋大学
MEITETSU
nadia
日建設計
日建設計コンストラクション・マネジメント
日建設計総合研究所
NIPPON KOEI
esri get it right
日本建築防災協会
NEC
Neural Pocket
BIOME
Hakuhodo DY holdings
Pacific Consultants
Pacific Spatial Solutions
PASCO
PASONA
Panasonic
Panasonic CONNECT
panoramatiks
JR東日本
日立コンサルティング
日立情報通信エンジニアリング
HITACHI
株式会社 日立ソリューションズ
buildingSMART Japan
FIELD MANAGEMENT EXPAND
pwc
FORUM8
FUKUYAMA CONSULTANTS CO.,LTD.
fujimoto
復建調査設計
Pretia
株式会社 プログウォッチャー
BASSDRUM
放課後NPO
HOLO LAB
MIERUNE
三菱伊藤忠ホールディングス
MRI 三菱総合研究所
MinX
MESON
MORI
山手総合計画研究所
Gukarya
Unity
MMM21
株式会社ライテック
REALGLOBE
Locus Blue

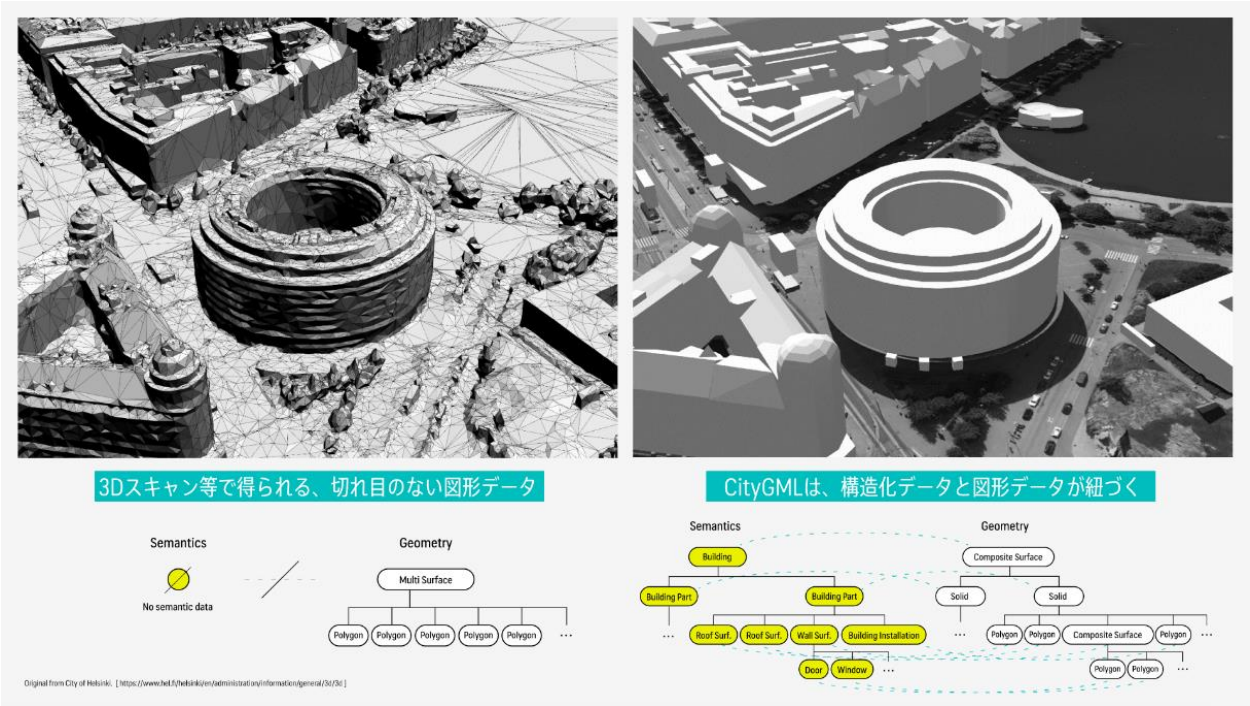
2. 3D都市モデルとは

2.1. 3D都市モデルとは何か

都市空間のデジタルツインあるいはまちづくりのDXを実現するための中核となる概念が「3D 都市モデル」である。

3D都市モデルとは、単なる“都市空間の3Dモデル”ではない。 既に商用サービスやオープンデータとして提供されている一般的な“都市空間の3Dモデル”は、都市を構成する建物や橋、道路などの様々なオブジェクトを、CADソフト等を用いてモデリングし、サイバー空間上で表示する。つまり、都市空間の“幾何形状”をサイバー空間上で再現するものであり、いわゆる「ジオメトリモデル（Geometry Model）」と呼ばれるものである。
PLATEAUが整備を進める3D都市モデルは、このような幾何形状（ジオメトリモデル）に、「建物」、「壁」、「屋根」等の地物定義や、「用途」、「構造」、「築年」、「災害リスク」等の活動的な意味（属性情報）ーつまりヒトにとっての都市空間の意味ーを付加した形で構築される点に最大の特徴がある。このような“都市空間の意味”は「セマンティクス（Semantics）」と呼ばれており、3D都市モデルとは「ジオメトリとセマンティクスの統合モデル」と呼ぶことができる。

図 ジオメトリモデル（左）とセマンティックモデル（右）のイメージ



このような統合モデルを可能とするデータ形式として、「CityGML」が国際的な標準規格として定められており、PLATEAUの3D都市モデルはCityGML規格を国内向けにローカライズした「3D都市モデル標準製品仕様書」によって標準化されたデータモデルを採用している。ここでは、「3D都市モデル」は「CityGML形式により都市スケールで整備されたジオメトリとセマンティクスの統合モデル」と定義されている。

2.2. 3D都市モデルの4つの特徴

3D都市モデルは、データの拡張性と連携性の高さにより、あらゆる分野において自律的・分散的・脱中心的価値の結び付きを惹起し、それぞれのプレイヤーが自らを中心にソリューションを思考・実装することが可能な結節点としての機能を有するアーキテクチャである。

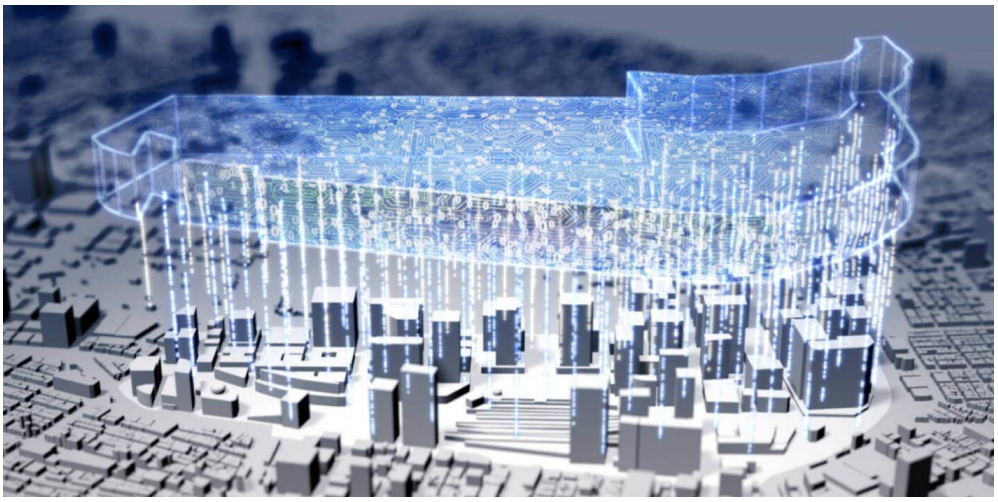
まず、3D都市モデルの「**ジオメトリ**（Geometry)」（3D形状）としては、上記の公共測量成果を利用しており、地物単位でどこまで詳細に再現するかを「LOD（Level of Detail)」という概念で管理している。もっともシンプルな「LOD 0」では２Dの図形のみ、「LOD 1」では建物をシンプルな「箱」として再現する。ここまでならば手間もコストも小さい。さらに、建物の外形を再現していく「LOD 2」「LOD 3」という段階を経て、最終的には、建物内の各フロアの状況までを再現する「LOD 4」に到達する。

さらに、都市計画基本図に含まれる属性データや、各省庁や地方自治体が共通形式でさまざまな都市にまつわる属性データを集積することで、これまでの地図には付加されていなかった空間的な意味「**セマンティクス**(Semantics)」を持った3D都市モデルができあがる。

3D都市モデルはこれらの情報を従来の2D地図を整備するために自治体が保有するデータから作成できるよう「**標準化**」されている。データのフォーマットは、内閣府地方創生推進事務局が定めたi-都市再生技術仕様案(i-UR)に従い拡張されたOGC（Open Geospatial Consortium）のCityGML 2.0形式を採用している。従来の2D地図は、5年に1度ほどのサイクルで、航空写真を撮影し、都市計画基本図という地図を作っている。3D都市モデルは、この成果を再利用可能な形で標準作業手順が定められており、各自治体がこれまで整備してきたデータを生かすことができるように仕様が決められている。

これらは「**オープンデータ**」として整備され、自由に検索・ダウンロード可能となる。将来的にはさまざまなプラットフォームのAPI（Application Programming Interface：ソフトウェアやデータなどを、外部プログラムから通信して利用するための手順やデータ形式の規約）を通じて、データ流通の更なる拡大を想定している。

これにより、3D都市モデルは他の3D地図や2D-GISデータと比較してより大きな価値を持つ。



2.2.1. ジオメトリ

3D都市モデルは従来の3D地図と同様に3次元形状（「ジオメトリ（Geometry）」）を持っているが、そのデータの持ち方にはCityGML2.0由来のものも含め、4つの特徴がある。
3D都市モデルがモデル化を行う対象を示す「地物」、形状の詳細度を示す「LOD（Level of Detail）」、測量手法と精度を担保する「公共測量成果」、建物の外観を画像で表す「テクスチャ」である。

地物

3D都市モデルは、地球上に存在する自然物・人工物をそれぞれの特性に合わせてデータ化するために、以下の20の「地物」を定義している。

表　3D都市モデルで定義された地物一覧

建築物	交通（道路）	植生	その他の構造物
都市計画決定情報	交通（徒歩道）	水部	地下街
土地利用	交通（広場）	地形	地下埋設物
災害リスク	交通（鉄道）	橋梁	区域
都市設備	交通（航路）	トンネル	汎用都市オブジェクト

LOD

3D都市モデルは、形状の詳細度を示すLOD（Level of Detail）を定義している。また、LODは地物の種別ごとに定義されている。

図 LOD（Level of Detail）のイメージ

表 3D都市モデルの標準製品仕様書で定義された、地物に対応して存在するLOD

地物	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	LOD4
建築物	○	○	○	○	○
交通（道路、徒歩道、広場、鉄道、航路）	○	○	○	○	-
都市計画決定情報	-	○	-	-	-
土地利用	-	○	-	-	-
災害リスク	-	○	-	-	-
都市設備	○	○	○	○	-
植生	○	○	○	○	-
水部	○	○	○	○	-
地形	-	○	○	○	-
境界	○	○	○	○	○
トンネル	○	○	○	○	○
その他の構造物	○	○	○	○	-
地下街	○	○	○	○	○
地下埋設物	○	○	○	○	○
区域	-	○	-	-	-
汎用都市オブジェクト	○	○	○	○	○

公共測量成果

3D都市モデルは「測量法」に基づく公共測量成果として作成されているため、精度管理されたデータとなっている。また、地図情報レベル2500での整備がベースとなるが、より精度の高い地図情報レベル500で整備されたエリアもある。

表　3D都市モデルの精度（原典データの精度）

地図情報レベル	水平位置の標準偏差	標高点の標準偏差	等高線の標準偏差	相当する地形図の縮尺
500	0.25m 以内	0.25m 以内	0.5m 以内	1/500
1000	0.70m 以内	0.33m 以内	0.5m 以内	1/1,000
2500	1.75m 以内	0.66m 以内	1.0m 以内	1/2,500

テクスチャ

3D都市モデルは建物の外観を再現するためにテクスチャ（画像）を持つことができる。LODによる3D形状の詳細度の再現性向上だけでなく、画像を貼り付けることでリアリティを向上させることが可能である。ただし、LOD2データにおいては、航空測量による撮影画像を利用するため、解像度は10cm/pixel以下が基本となり、俯瞰ではリアルに表現されるが、アイレベル等の近距離では粗さがみられる。また、撮影時の日照によるコントラスト等の影響を受ける点は注意が必要である。

図　テクスチャによる再現性・表現力の向上（左：低解像度テクスチャ、右：高解像度テクスチャ）

2.2.2. セマンティクス

3D都市モデルは公共測量に基づく形状データだけでなく、意味情報（「セマンティクス（Semantics）」）も統合されたデータである点が大きな特徴である。
また、ジオメトリとセマンティクスの統合モデルは、都市空間の再現を限りなく緻密に行うポテンシャルを有している。換言すれば、コンピュータやプログラムが認識する3D都市モデルのデータを限りなく現実に近づけることが可能となる、このようなデータの“マシンリーダブル（machine readable:機械可読性）”こそが、まちづくりのDX及び都市空間のデジタルツインの実現に向けた3D都市モデルのポテンシャルであるといえる。

3D都市モデルが持つ属性データは、主題属性と空間属性の二つに大別される。

<u>主題属性</u>

- 建物の用途や建築年など、地物の特性を表す非空間的な情報

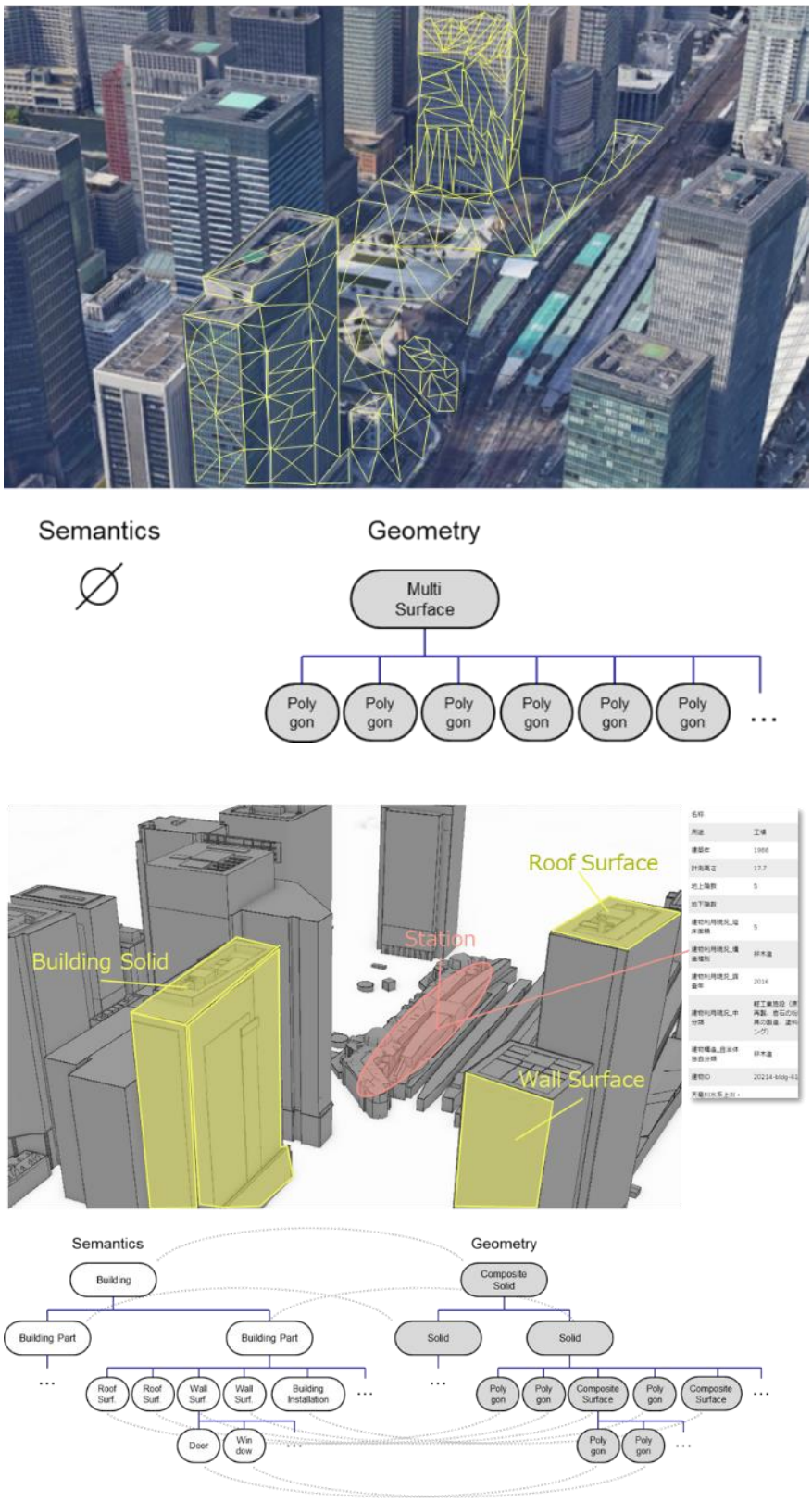
<u>空間属性</u>

- オブジェクトの位置や形状、高さなどの幾何学的特性を表す情報。具体的には形状に紐づく形で屋根面・壁面・接地面・窓（開口部）といった情報を持つ

またユースケース活用においては、3D都市モデルのセマンティクスを用いることで、ジオメトリモデルのみではできなかった高度な分析、可視化、シミュレーションを都市スケールで実現することが可能となる。例えば、「屋根（roof）」の属性値が含まれたジオメトリを抽出し、角度や傾き、日陰等を入力することで、都市スケールで太陽光発電シミュレーションが可能となる。また、屋内外の歩行可能な「床（floor）」や「歩道（sidewalk）」を抽出すれば、屋内外を含む立体的な避難シミュレーションもできるようになる。

他にも、建築物の「壁面（wall)」の位置や材質（material）情報を活用することで、騒音や電波の拡散・減衰シミュレーションなども可能となる。また、近年急速にAIの学習データとしても意味情報は重要である。

図　一般的な 3D 地図（上）と 3D 都市モデル（下）のデータ構造の違い



2.2.3. 標準化

3D都市モデルは、地理空間データに関する標準化団体であるOGC（Open Geospatial Consortium）が策定した3D 都市モデルのためのオープンデータモデル及びデータ形式の国際標準である「CityGML2.0」と、このCityGMLの拡張規則であるApplication Domain Extension（ADE）に基づき内閣府地方創生推進事務局が都市再生に必要なデータを拡張した「i-都市再生技術仕様（案）」（i-UR）に準拠した標準仕様を定めている。
データフォーマットとしては、CityGML形式を採用している。

3D都市モデルの標準製品仕様の特徴

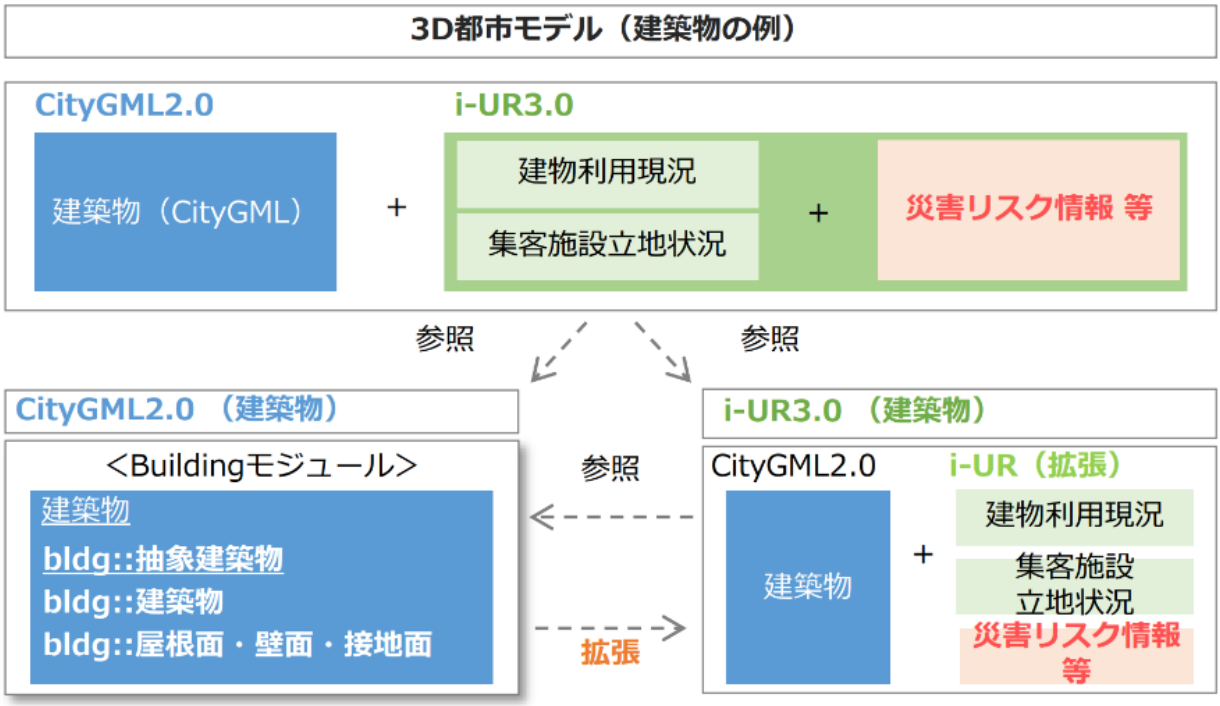
CityGML2.0への準拠

- CityGML2.0は地理空間データに関する標準化団体であるOGCが策定した3D都市モデルのためのオープンデータモデル及びデータ形式の国際標準である
- CityGML2.0は、あらゆるデータに対応できるよう、拡張仕様としてADE（Application Domain Extension）が定義され、仕様に準拠した形での拡張を認めている

i-UR3.0への準拠

- i-UR3.0は内閣府地方創生推進局が定めた都市再生に必要なデータを仕様化したもの。国内の自治体が保有する様々な情報のデータ化を可能とする
- 3D都市モデルでは、これをCityGML2.0のADEとして利用することで、国内の様々なデータをCityGML形式で取り込み、オープンデータ化することを実現している

図 3D都市モデル、i-UR3.0、CityGML2.0の関係（例：建築物）

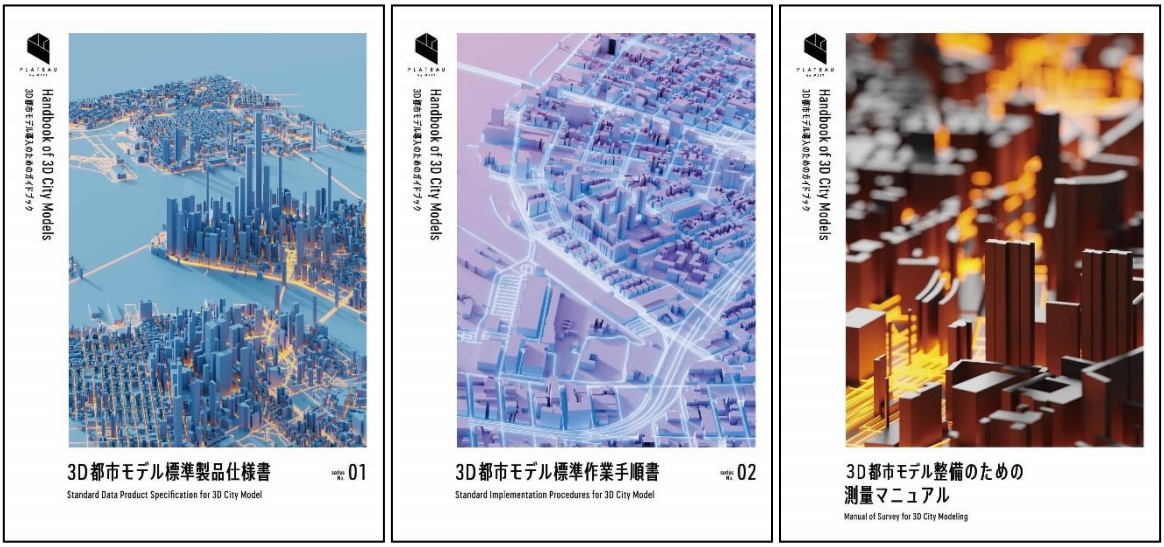


品質管理を行うため標準作業手順の定義

- ファイルの仕様を定めた「標準製品仕様書」だけでなく、CityGML2.0の仕様には含まれないモデル作成・測量の手順・手法をそれぞれ定めた「標準作業手順書」と「測量マニュアル」を作成し、これをデータ整備の要件とすることで、品質管理体制を構築している。
- ツールを使った品質検査の手法も開発しており、オープンデータ化にあたりデータの不備を、システムを使うことで品質を担保している。

3D都市モデルのデータ仕様の詳細については、「3D都市モデル標準製品仕様書」を参照されたい。
https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/

図　標準製品仕様書/標準作業手順書/測量マニュアル



なお、3D都市モデルの標準仕様は、PLATEAUコンソーシアムの標準化検討WGを通じてアップデートやメンテナンスが行われている。

図　標準化検討WG構成員（2024年12月13日時点版）

【参考資料】

標準化検討WG構成員

	氏名	所属・役職
1	有川 正俊（座長）	秋田大学大学院理工学研究科 数理・電気電子情報学専攻 人間情報工学コース 教授
2	久保田 光一	中央大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻 数値情報処理研究室 教授
3	畑山 満則	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 災害情報システム研究領域 教授
4	古橋 大地	青山学院大学 地球社会共生学部 地球社会共生学科 教授
5	藤田 秀之	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻　准教授
6	藤本 悠	芸術文化観光専門職大学 芸術文化・観光学部 准教授
7	飯田 知靖	朝日航洋株式会社　自治体アセット事業部　自治体DX推進室　プロジェクトリーダー
8	久保　学	アジア航測株式会社 空間情報技術センター 東日本空間情報部　部長
9	岡田 泰征	国際航業株式会社 事業統括本部　地理空間基盤技術部 3D都市モデルPJ推進G　情報基盤担当部長
10	杉本 猛夫	株式会社パスコ 中央事業部　空間情報コンサルタント室 DX推進課　主任技師
11	田村 賢哉	株式会社ユーカリヤ 代表取締役CEO
12	十川 優香	国土交通省都市局
	（事務局）	アジア航測株式会社

MLIT　Copyright © 2024 by MLIT. All rights reserved.　20

2.2.4. オープンデータ

3D都市モデルの大きな特徴の一つは、整備されたデータが原則としてオープンデータとして公開されていることである。これは、誰もが自由にデータを利用し、新しい価値を創造できることを意味する。
また、政府におけるオープンデータ基本指針としてオープンデータ化が推進されており、PLATEAUもこの方針を強力に進めている。3D都市モデルのデータフォーマットであるCityGML2.0の持つ拡張機能であるADEを利用することで、自治体が保有する様々なデータをオープンデータ化することを可能としているだけでなく、Project PLATEAUとして、これまでクローズドだった情報のオープンデータ化を促す取り組みも行っている。

オープンデータ基本指針（抜粋）
https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/f7fde41d-ffca-4b2a-9b25-94b8a701a037/f1e42cee/20240705_resources_data_guideline_01.pdf

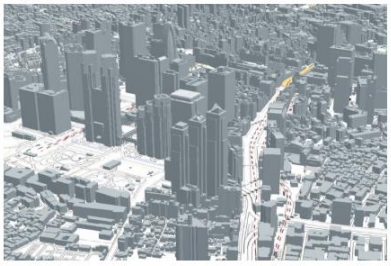
１．オープンデータの意義
公共データの二次利用可能な形での公開とその活用を促進する意義・目的は、次のとおりである。
（１）国民参加・官民協働の推進を通じた諸課題の解決、経済活性化
広範な主体による公共データの活用が進展することで、創意工夫を活かした多様なサービスの迅速かつ効率的な提供、官民の協働による公共サービスの提供や改善が実現し、ニーズや価値観の多様化、技術革新等の環境変化への適切な対応とともに、厳しい財政状況、急速な少子高齢化の進展等の我が国が直面する諸課題の解決に貢献することができる。地方公共団体においては、公共データの利活用により、住民や民間企業等との連携を図りつつ、地域の課題を解決することにもつながる。
また、ベンチャー企業等による多様な新サービスやビジネスの創出、企業活動の効率化等が促され、我が国全体の経済活性化にもつながる。
（２）行政の高度化・効率化
国や地方公共団体においてデータ活用により得られた情報を根拠として政策や施策の企画及び立案が行われることで（EBPM：エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）、効果的かつ効率的な行政の推進につながる。さらに、デジタル技術やデータを活用して公共サービスの向上や業務効率化を推進する点においてオープンデータ取組の意義・目的と重なるDX（デジタル・トランスフォーメーション）等の取組の推進にもつながる。
（３）透明性・信頼の向上
政策立案等に用いられた公共データが公開されることで、国民は政策等に関して十分な分析、判断を行うことが可能になり、行政の透明性、行政に対する国民の信頼が高まる。

3D都市モデルは、Ｇ空間情報センター 3D都市モデルポータルサイトにて、オープンデータとして公開されている。https://front.geospatial.jp/plateau_portal_site/
これらのオープンデータは、公共データ利用規約（第1.0版）に基づき、自由に利用することができる。
https://www.digital.go.jp/resources/open_data/public_data_license_v1.0

3. 3D都市モデルの使い方を知る

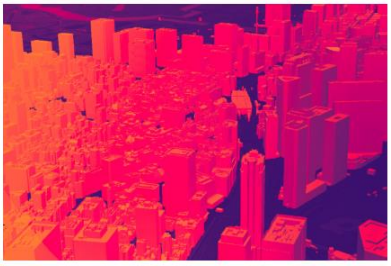
3.1. 3D都市モデルの提供価値

3D都市モデルの特徴であるジオメトリとセマンティクスにより、3D都市モデルは、「ビジュアライズ（視認性）」「シミュレーション（再現性）」「インタラクティブ（双方向性）」の3つの価値を提供する。さらに標準化、オープンデータにより、誰でも様々なシステムを通してこれらの価値を利用することができる。



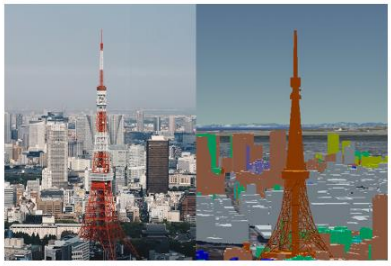
ビジュアライズ（視認性）

都市空間を立体的に認識可能となり、説明力や説得力が向上



シミュレーション（再現性）

立体情報を持った都市空間をサイバー上に再現することで、幅広く、精密なシミュレーションが可能



インタラクティブ（双方向性）

フィジカル空間とサイバー空間が相互に情報を交換し作用し合うためのプラットフォームを提供

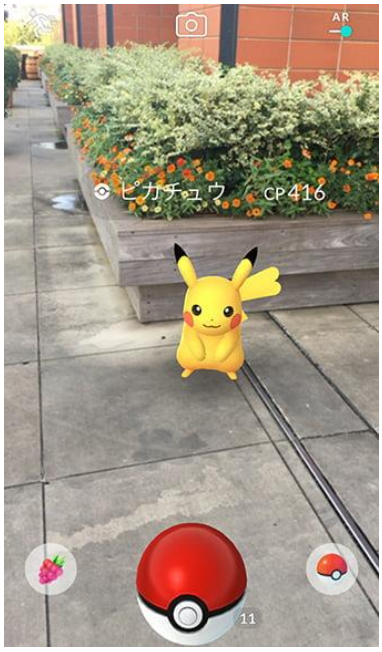
3.2. 3D都市モデルの活用領域

3D都市モデルはまちづくりだけでなく様々な分野においてその提供価値を利用したユースケースを実現することが可能である。以下に、様々な業界における3D都市モデルの活用事例を示す。

ゲーム：　ポケモンGo

https://www.pokemongo.jp/

システム内の地図に3D都市モデルが取込まれたOpenStreetMapを活用



ミュージックビデオ：　「絆ノ奇跡」MAN WITH A MISSION×milet

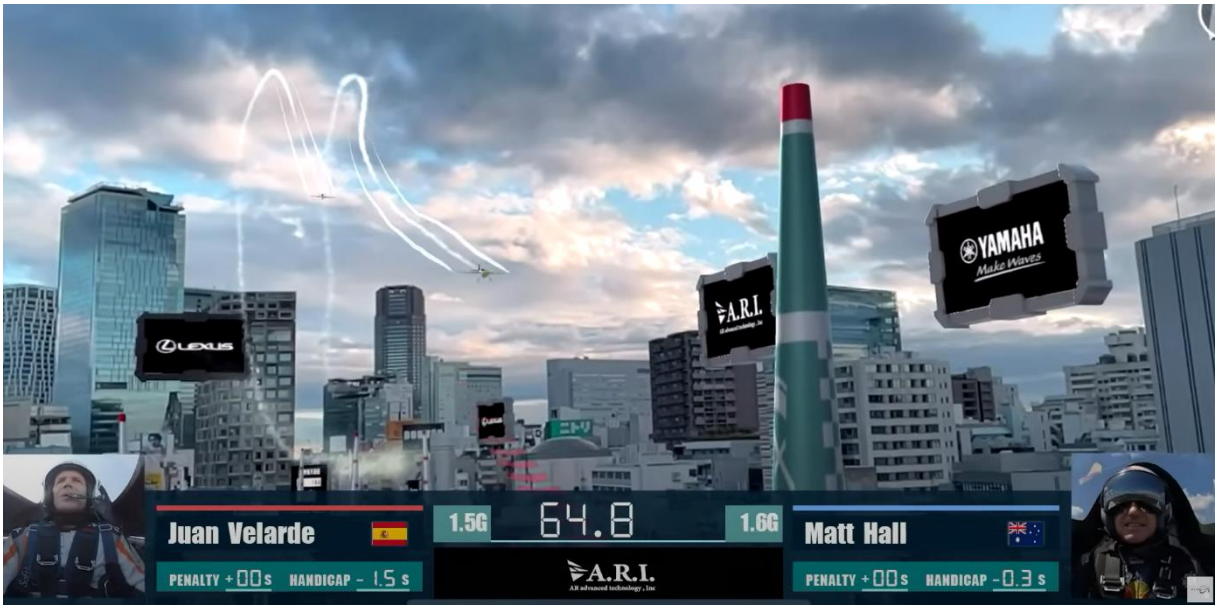
https://www.youtube.com/watch?v=Jb6Zlg30rgk

冒頭の東京タワーを中心とした夜間の俯瞰映像として活用

イベント：　「AIR RACE X」

https://www.youtube.com/live/_OnScD476zs

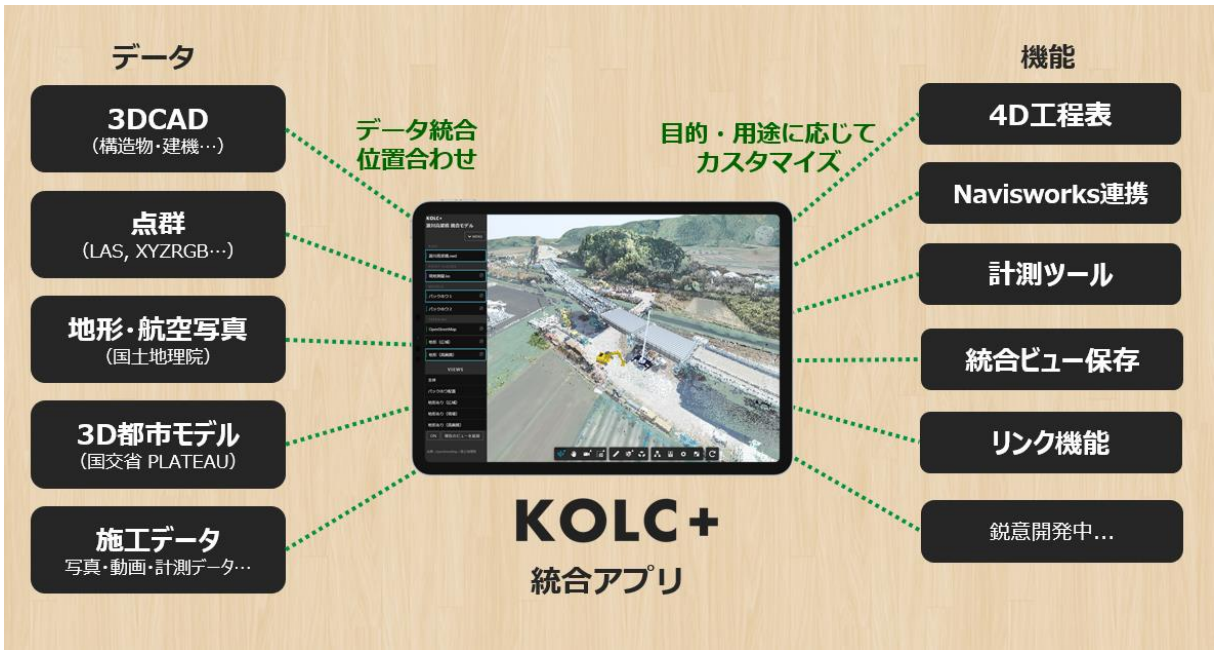
空のF1ことAIR RACE Xを、ARを活用し渋谷で開催。渋谷の都市空間の位置合せやARオクルージョンマスクに3D都市モデルを活用



サービス：　BIM/CIM共有クラウドサービス「KOLC＋統合アプリ」

https://kolcx.com/

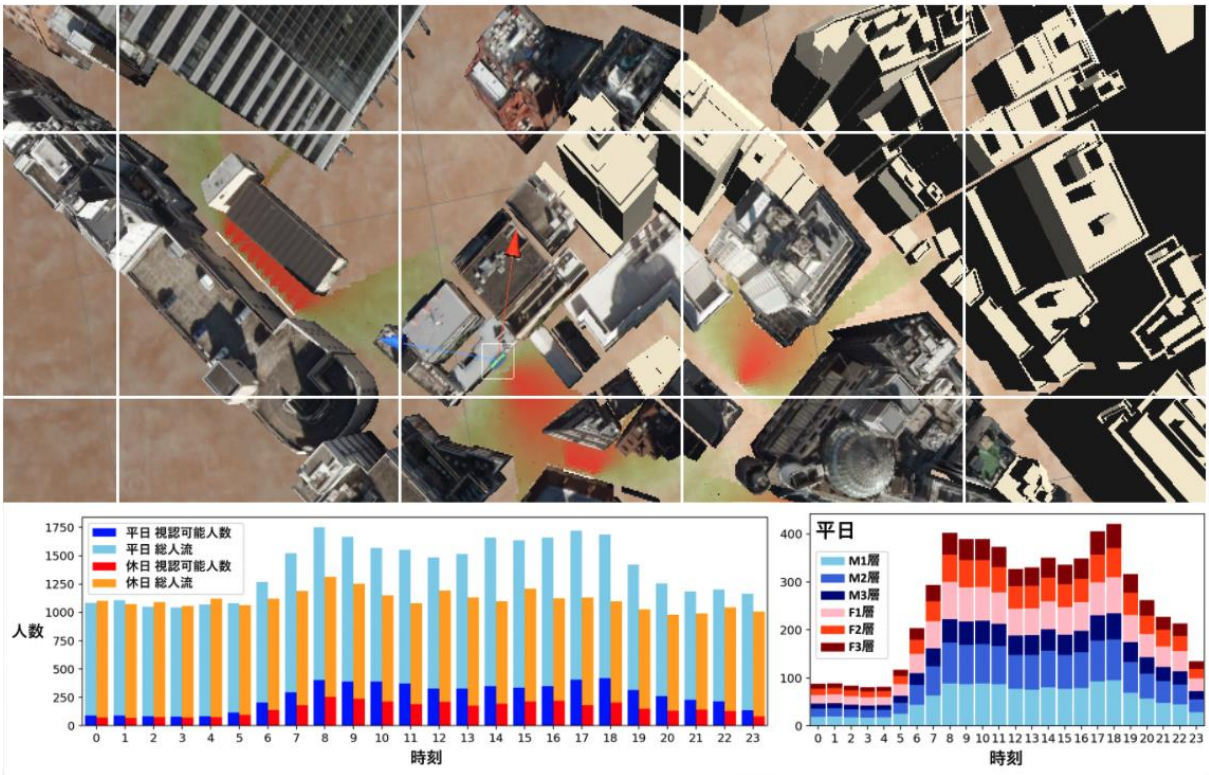
BIM (Building Information Modeling)/CIM (Construction Information Modeling)モデル、点群データ、3D都市モデル等をクラウドで統合し、施工現場を支援



サービス：　ヘキメン

https://www.hekimen.jp/

3D都市データを活用し、人流データ等を重ね合わせて分析することで視認性を定量評価

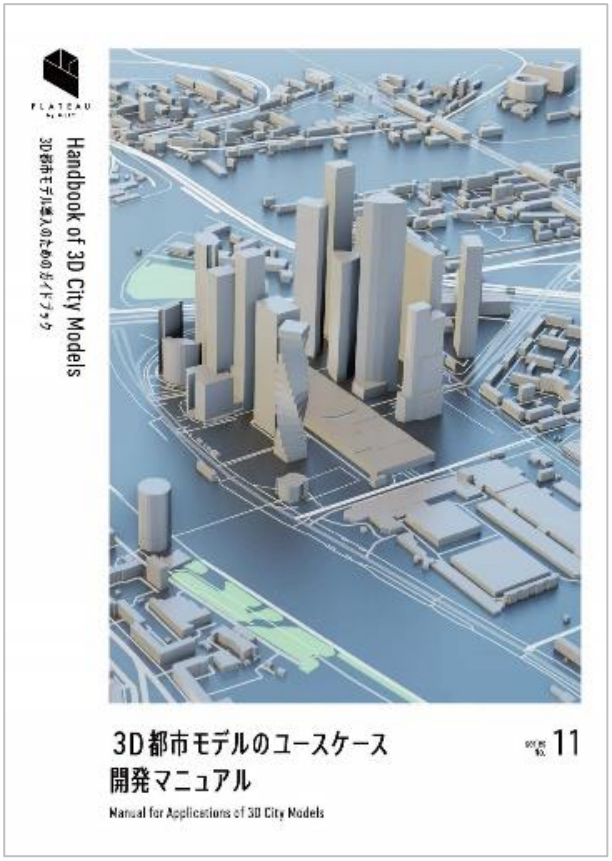


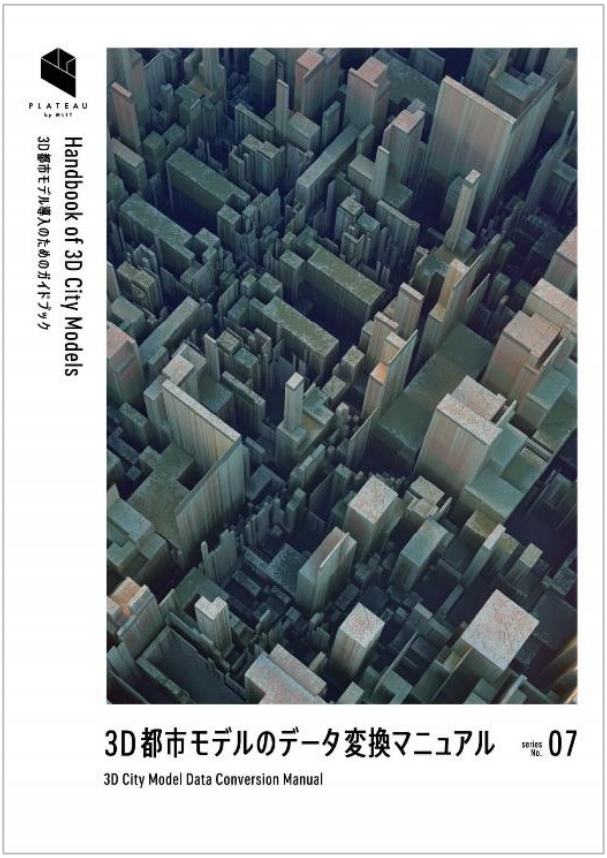
その他、各分野において以下のような活用例が考えられる。

分野	提供価値	サービス詳細
防災	災害時の影響推定の高度化	水害・津波・地すべり・火災などの災害シミュレーション
	遠隔災害復旧作業の環境構築	3Dモデルを活用した救助・救護活動支援
	避難誘導支持の高度化	災害時の乗客の適切な避難/誘導の支援、車両疎開判断等
都市計画・まちづくり	都市計画の高度化	日射・ビル風などの環境シミュレーションや人流シミュレーションによる高度な都市計画
	現況把握の効率化	まちづくりの検討に必要な基礎情報の効率的な収集ツール
	行政事務の効率化	開発許可などの行政事務の効率化
	市民参加型まちづくりの実現	XR技術等により直感的UIを備えたまちづくり検討ツールにより一般市民の街づくり参画を促進
	歩行ルート設計の高度化	施設配置・バリアフリールートの表示、日照や傾斜を踏まえた最適なランニングコースの設定
建築・不動産	建築設計の高度化	日射・ビル風などの環境シミュレーションを踏まえた建築設計
	工事計画策定の高度化	大型車両のための工事現場までのルート検索
	不動産価値算定の高度化	災害時被害シミュレーションに基づく地価分析
	新しい内覧体験の創出	バーチャル内見、眺望シミュレーションによるリモート不動産内覧
インフラ管理	維持管理計画策定の高度化	統合モニタリングや保守メンテナンス業務計画の最適化
	作業管理の効率化	送電網のデジタルツイン化によるインフラ管理効率化
	遠隔点検の環境構築	ダムなどの危険地帯のインフラのデジタルツインによる管理
	地下インフラ管理の効率化	地上から確認できない地下インフラのデジタルツインによる管理
	災害対策計画の高度化	被害状況・避難シミュレーションなどによる防災計画の高度化
セキュリティ・防犯	防犯計画立案の高度化	3Dシミュレーションなどによるテロ対策や要員配置の検討
	遠隔パトロールの環境構築	防犯カメラ情報などを3D地図上で統合した治安モニタリング
環境・エネルギー	発電ポテンシャル推計高度化	太陽光発電の反射シミュレーション
	エネルギー需給推計の高度化	エネルギーマネジメントシステムによるエネルギー需給最適化
	環境評価の高度化	日照・風シミュレーション
観光	景観資源の可視化	3Dを活用したシティプロモーションの実施
	新しい観光体験の創出	メタバース観光などによる外国人観光客誘致
	イベント企画・運営の高度化	移動・回遊を踏まえた動線設計、混雑状況可視化、流動最適化
エンターテイメント	新しいエンタメ体験の創出	バーチャル空間とリアル空間を連動させたコンサート開催
	クリエイティブの効率化	3Dを活用した映像/ゲーム背景の作成
小売	商圏分析の高度化	周辺人流のシミュレーションによる出店判断・売上予測の精度向上
	新たな販路拡大	コロナ禍等におけるVR店舗を用いた販路拡大
モビリティ・ロボティクス	デジタルツイン上へ実証環境構築	自動車やロボットの自動運転AIの開発シミュレーション環境構築
	ルート設計の高度化	自動運転車、ドローン、輸送用ロボットの配送ルート設定
	遠隔工事の環境構築	3Dデータを活用したICT建機稼働
広告	効果測定の高度化	人流/視野角シミュレーションを通した広告効果の測定
	バーチャル空間への広告掲載	バーチャルコンテンツ上でのWeb広告表示
	新たな広告表現	3Dを活用した効果的な広告サンプル作成
金融	融資検討の高度化	物件の担保価値・資産評価、店舗の立地等投資対効果の事前検証
	保険料算定の高度化	リスクシミュレーションによる保険料率の最適化
	損害保険査定の迅速化	災害・資産評価シミュレーションから、想定被害額・査定額を算出
通信	インフラ設計の高度化	3Dモデルによる電波干渉度合シミュレーション

なお、Project PLATEAUではこれまで100件以上のユースケースを開発しており、3D都市モデル活用の参考にされたい。

- PLATEAU公式サイト「Use Case」　https://www.mlit.go.jp/plateau/use-case/
- 3D都市モデルの導入のためのハンドブック　#11「3D都市モデルのユースケース開発マニュアル」
  https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/



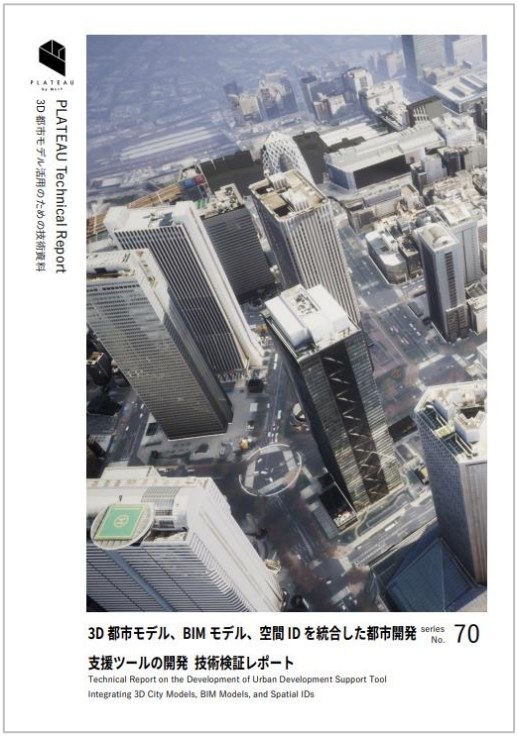


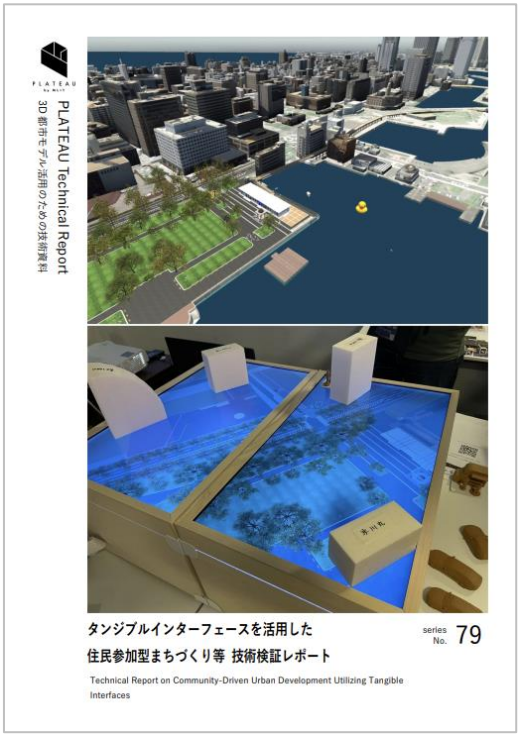
また、既存の3DCGやGIS、ゲーム等のソフトウェアで3D都市モデルを利用するためのデータ変換マニュアルも参考にされたい。

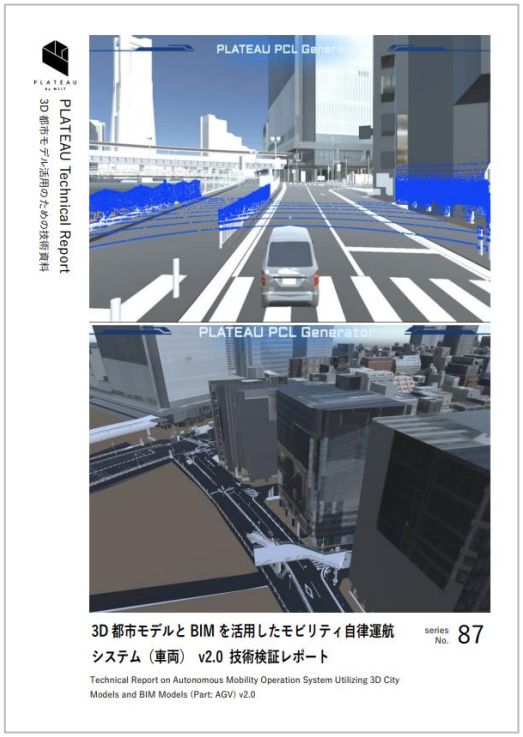
- 3D都市モデルの導入のためのハンドブック　#07「3D都市モデルのデータ変換マニュアル」
  https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/

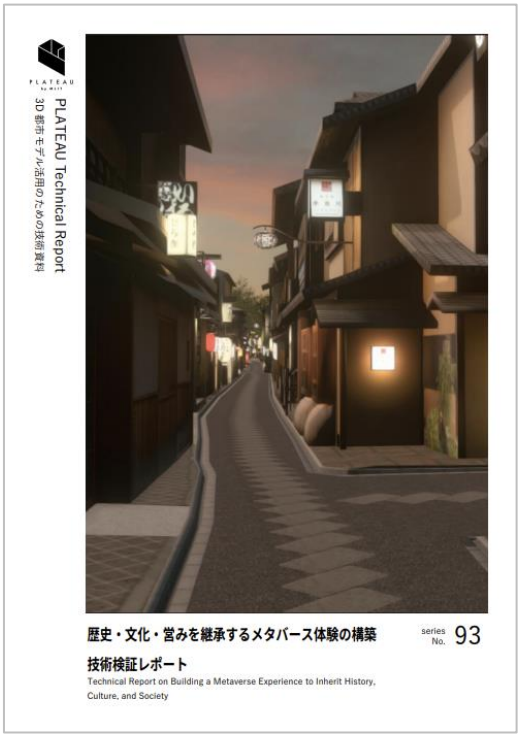
各ユースケースの実装方法やそれらの技術の検証に関しては、技術検証レポートを確認されたい。

- 3D都市モデル活用のための技術資料　https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/technical-reports/







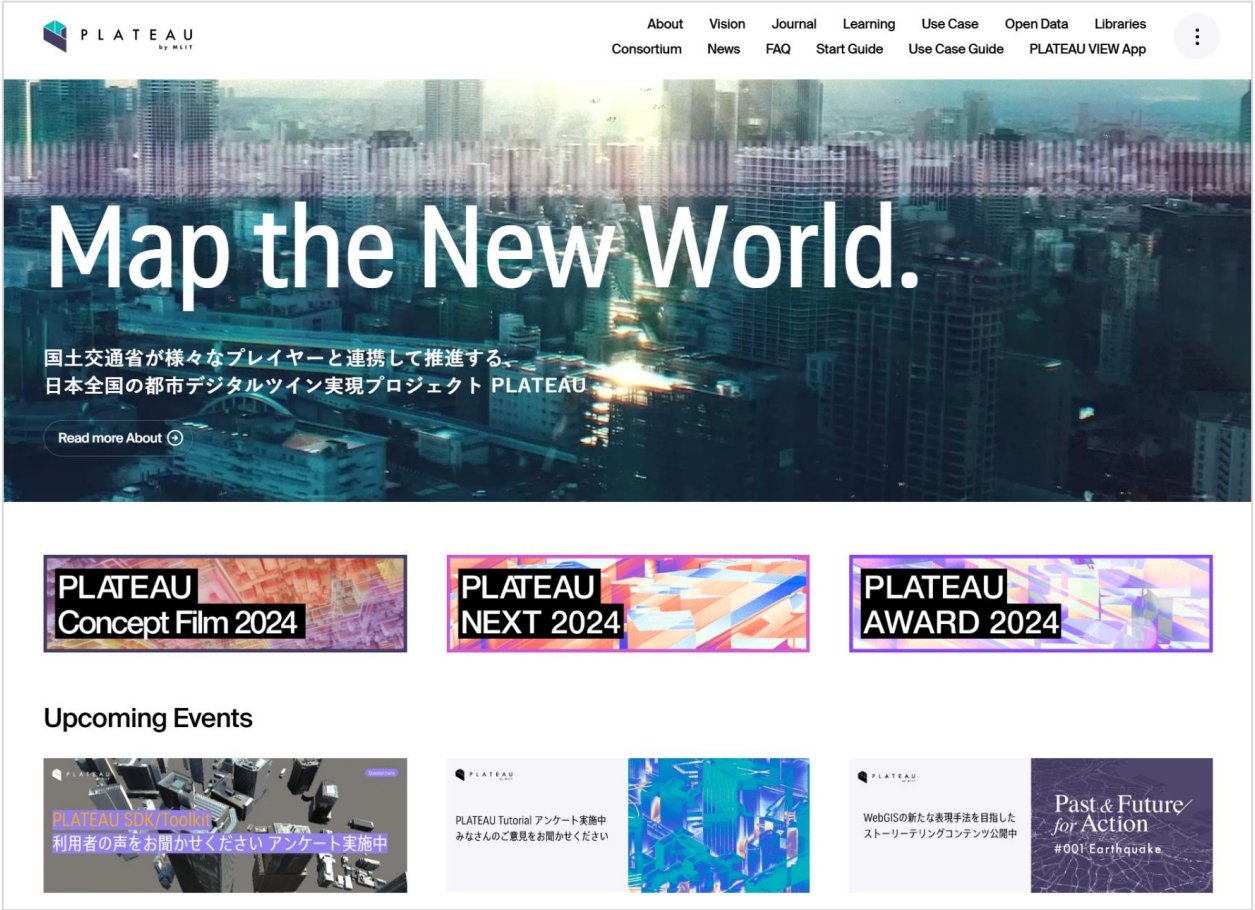


4. PLATEAUの取組を知る

4.1. PLATEAUの最新情報を知る

PLATAUの最新情報を知るためにはまず、公式サイトを参照されたい。

https://www.mlit.go.jp/plateau/



また、公式Xアカウント@ProjectPlateauでは、イベント情報を中心に発信しているため、是非フォローをお願いしたい。https://x.com/ProjectPlateau

Webサイト　Journalおすすめコンテンツ

Journalページよりおすすめのインタビュー記事を以下に抜粋。その他、多数のインタビュー記事やイベント報告が掲載されているため、是非ご確認いただきたい。https://www.mlit.go.jp/plateau/journal/

- インタビュー記事「仮想空間と身体性。映画監督・押井守が語る都市論・創作論」
  https://www.mlit.go.jp/plateau/journal/j057-1/

仮想空間と身体性。映画監督・押井守が語る都市論・創作論【前篇】

『うる星やつら　オンリー・ユー』『うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー』から『機動警察パトレイバー the Movie』、『GHOST IN THE SHELL/ 攻殻機動隊』、そして『スカイ・クロラ The Sky Crawlers』まで、多くのクリエイターに影響を与えたアニメーション作品の監督であり、小説執筆、実写監督、ゲーム監督と幅広い領域でのクリエイションも手がける。圧倒的な世界観とテクノロジーに対する独自の視点を持つ押井守監督が、3D都市データPLATEAUから始まり、創作について、都市について、軽やかに語るインタビュー。

- インタビュー記事「『SAO』『ポケモンGO』から見える都市の新たな可能性。自由に使える「デジタルツイン」データが、エンターテインメントを変える」
  https://www.mlit.go.jp/plateau/journal/j005/

『SAO』『ポケモンGO』から見える都市の新たな可能性。自由に使える「デジタルツイン」データが、エンターテインメントを変える。

—— 日本はデジタル関連施策で遅れている、と言われることが多い。だが、こと特定のジャンルについては、ビジョンと認識の面で世界の最先端を走っている。それが「エンターテインメント」だ。VRやAR関連業界では、「市場規模以上に日本は積極的である」という声を聞くことは多い。それはまさに、小説やアニメ、ゲームなどでVR・AR世界に触れている人が多いからでもある。 では、そんな世界を描いている人々は、Project “PLATEAU”（プラトー）のような存在をどう感じるのだろうか？ 仮想世界と現実の関係を描いた大ヒットライトノベル『ソードアート・オンライン』『アクセル・ワールド』の作者である川原礫氏、位置情報・ARを活用したスマートフォン用大ヒットゲーム『Ingress』『Pokémon GO（ポケモン GO）』を開発した、Nianticの米国本社 副社長である川島優志氏に聞いた。

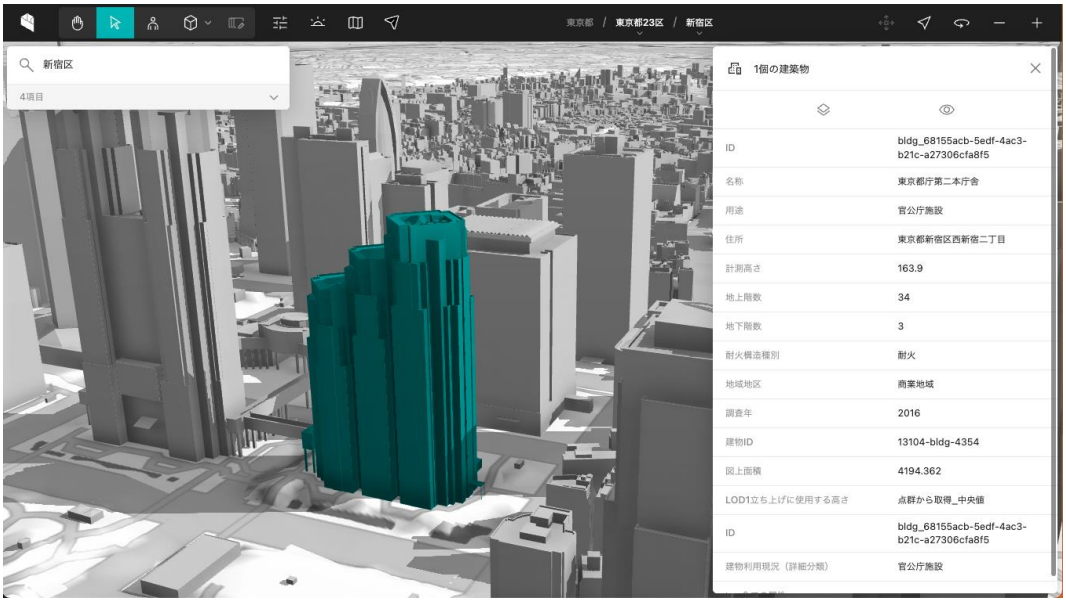
4.2. 3D都市モデルを触ってみる

3D都市モデルに興味が出てきたら、まずは触ってみることをお勧めしたい。
PLATEAU VIEW（https://plateauview.mlit.go.jp）は、Webブラウザ上で3D都市モデルをプレビューできるPLATEAU公式のWebアプリケーションであり、無料で利用できる。デジタル空間上に再現された都市をあらゆる角度から観察でき、空間上に情報のレイヤーを自由に重ねることで、これまでのデータでは気づき得なかった新たな視点に出会えることでしょう。
なお、PLATEAU VIEWはオープンソースのRe:Earth（https://reearth.io/）をベースに開発されたWebGISである。グラフィックボードが持つ高速な演算・描画機能をブラウザから利用するWebGL技術を採用しており、これまでにないほど軽量・高速に3Dの地図を扱うことができる。

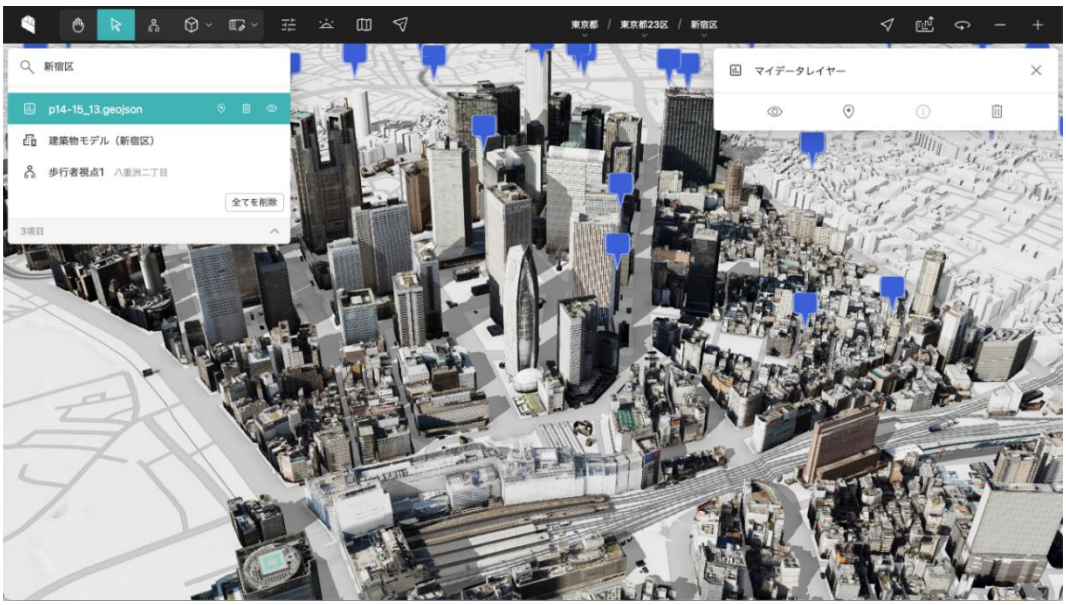
PLATEAU VIEWできることの一例

① オープンデータ化された3D都市モデルの3D可視化

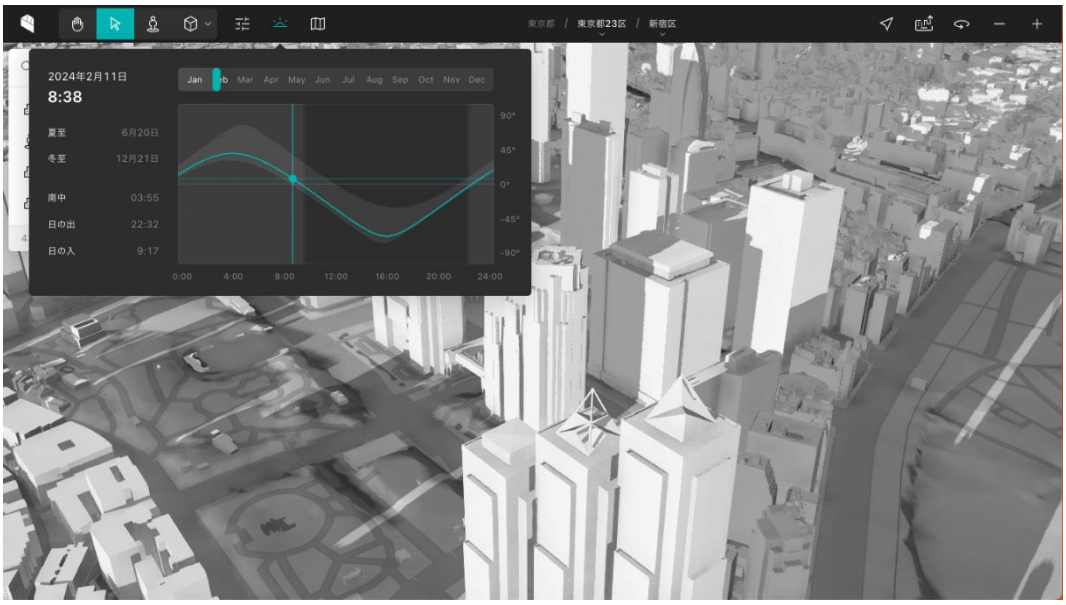
② 意味情報（セマンティクス、属性データ）の確認



③ GISデータの読み込み・可視化



④ 太陽光シミュレーション



詳しい使い方については、公式サイトのLearning記事「TOPIC 2｜PLATEAU VIEWで体験する」を確認されたい。https://www.mlit.go.jp/plateau/learning/tpc02-1/

4.3. 3D都市モデルを入手する

3D都市モデルは、2024年度に259都市が整備・オープンデータ化が完了している。
これらのデータは、G空間情報センターの3D都市モデルポータルサイトよりダウンロード可能である。
https://front.geospatial.jp/plateau_portal_site/

なお、各都市で整備されている地物やLOD、格納されている属性情報は都市毎に異なるため、データを入手する前に、上記ポータルサイトの「整備都市の属性リスト」を確認されたい。

表　3D都市モデルが整備・オープンデータ化されている都市の一覧（2024年度末）

北海道	札幌市	室蘭市	更別村			
青森県	むつ市					
岩手県	盛岡市	宮古市				
宮城県	仙台市					
秋田県	大館市					
福島県	福島市	郡山市	いわき市	白河市	相馬市	南相馬市
茨城県	つくば市	鉾田市	境町			
栃木県	宇都宮市					
群馬県	桐生市	館林市	前橋市			
埼玉県	さいたま市	熊谷市	川口市	所沢市	加須市	春日部市
	鴻巣市	越谷市	蕨市	戸田市	志木市	新座市
	久喜市	八潮市	富士見市	三郷市	蓮田市	幸手市
	鶴ヶ島市	吉川市	白岡市	伊奈町	三芳町	毛呂山町
	上里町	宮代町	杉戸町	松伏町		
千葉県	千葉市	木更津市	茂原市	柏市	八千代市	
東京都	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区
	墨田区	江東区	品川区	目黒区	大田区	世田谷区
	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区	北区	荒川区
	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区	江戸川区	八王子市
	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市
	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市
	国分寺市	国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市
	東久留米市	武蔵村山市	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野市
	西東京市	瑞穂町	日の出町	檜原村	奥多摩町	大島町
	利島村	新島村	神津島村	三宅村	御蔵島村	八丈町
	青ケ島村					
神奈川県	横浜市	川崎市	相模原市	横須賀市	鎌倉市	厚木市
	箱根町					
新潟県	新潟市	長岡市	加茂市	上越市		
富山県	高岡市	射水市				
石川県	金沢市	加賀市				
山梨県	甲府市					
長野県	松本市	岡谷市	諏訪市	伊那市	茅野市	佐久市
	安曇野市					
岐阜県	岐阜市	大垣市	美濃加茂市			
静岡県	清水町	静岡市	浜松市	沼津市	熱海市	三島市
	富士宮市	伊東市	島田市	富士市	磐田市	焼津市
	掛川市	藤枝市	御殿場市	袋井市	下田市	裾野市
	湖西市	伊豆市	御前崎市	菊川市	伊豆の国市	牧之原市
	東伊豆町	河津町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町	函南町
	長泉町	小山町	吉田町	川根本町	森町	
愛知県	名古屋市	豊橋市	岡崎市	春日井市	豊川市	津島市
	豊田市	安城市	日進市			
三重県	四日市市	伊勢市	熊野市			
滋賀県	長浜市					

京都府	京都市					
大阪府	大阪市	堺市	岸和田市	豊中市	池田市	高槻市
	河内長野市	和泉市	柏原市	摂津市	東大阪市	忠岡町
兵庫県	姫路市	加古川市	三木市	朝来市	たつの市	
和歌山県	和歌山市	すさみ町	太地町			
鳥取県	鳥取市	米子市	境港市	日吉津村		
島根県	益田市	隠岐の島町				
岡山県	倉敷市	備前市				
広島県	広島市	呉市	竹原市	福山市	府中市	三次市
山口県	周南市					
徳島県	徳島市					
香川県	高松市	さぬき市				
愛媛県	松山市	東温市				
高知県	高知市	いの町				
福岡県	北九州市	福岡市	大牟田市	久留米市	飯塚市	宗像市
	古賀市	うきは市	筑前町			
佐賀県	鳥栖市	武雄市	小城市	大町町	江北町	白石町
長崎県	佐世保市	松浦市	波佐見町			
熊本県	熊本市	荒尾市	玉名市	益城町		
大分県	日田市	臼杵市				
宮崎県	延岡市					
鹿児島県	南さつま市					
沖縄県	那覇市					

4.4. PLATEAUの成果を使ってみる

Project PLATEAUのユースケース開発の中で、無料ですぐに利用可能なユースケースを２つ紹介する。
それぞれ利用マニュアルを公開している。ぜひ確認の上、体験いただききたい。
そのほか、PLATEAU GitHubにて毎年OSS（オープンソースソフトウェア）としてProject PLATEAUの成果が公表されるため、アクセスいただききたい。https://github.com/Project-PLATEAU/

PLATEAU TwinLink（都市開発支援ツール）

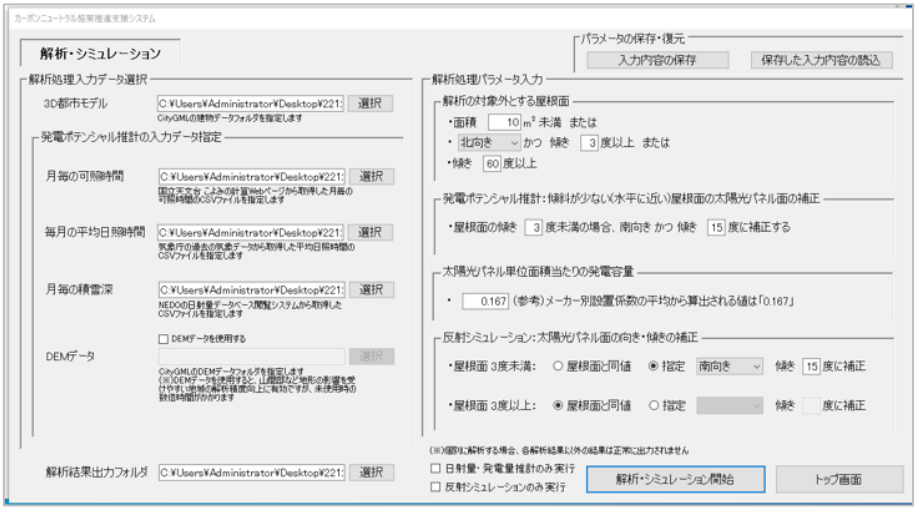
https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-TwinLink

都市計画の検討や都市開発のプロポーザル、建築設計の合意形成、シティプロモーションなど、まちづくりの各フェーズでプレゼンテーションや資料作成等に利用することが可能なビジュアライゼーションツールである。

カーボンニュートラル施策推進支援システム

https://github.com/Project-PLATEAU/SolarPotential

脱炭素施策推進のためのロードマップや計画策定、太陽光発電促進の重点エリア、将来の土地利用のあり方の検討などを支援し、地域の脱炭素政策の推進するための太陽光発電シミュレーションツールである。



PLATEAU SDK

自身で3D都市モデルを活用したソフトウェアの開発をされたいという方向けにゲームエンジンUnity / Unreal Engine向けのPLATEAU SDKを開発・提供している。PLATEAU SDKは主に以下の機能を有する。

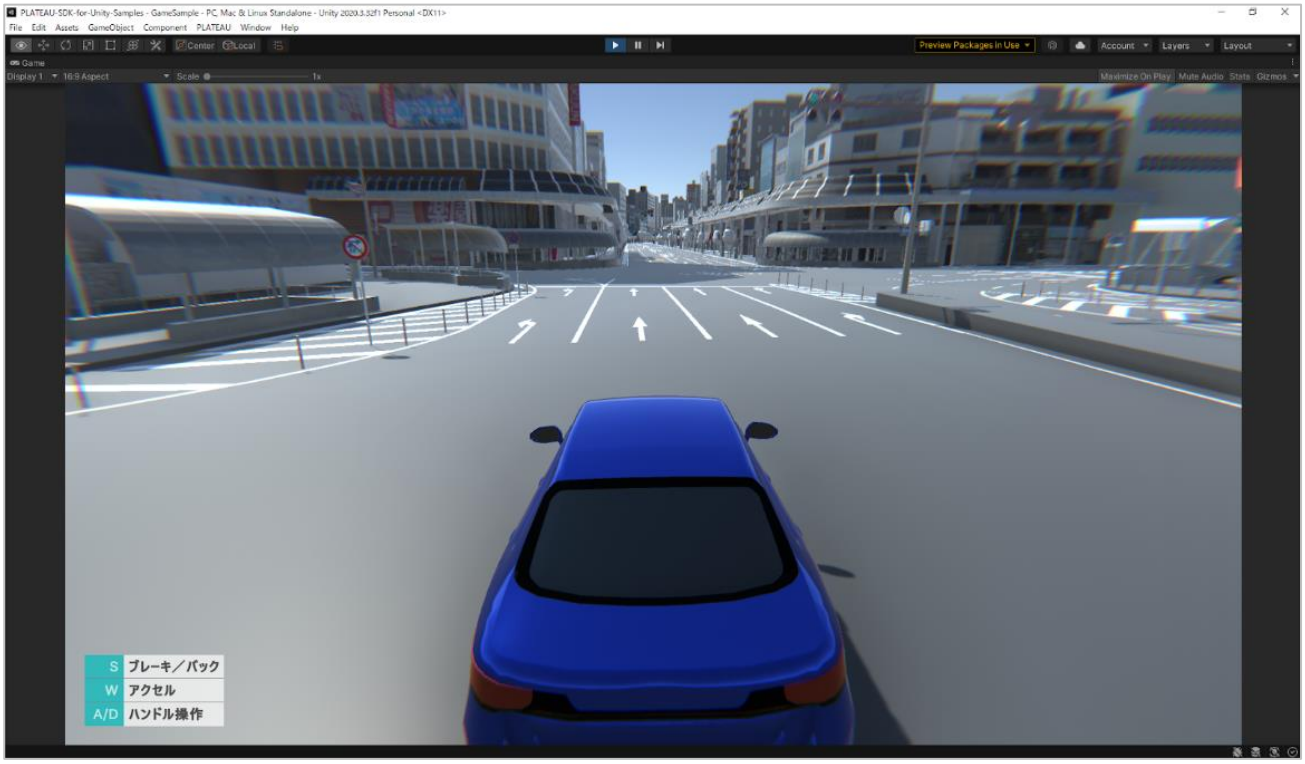
機能分類	機能詳細
インポート機能	ローカルファイル（CityGML形式）のインポート
	サーバーからの直接ダウンロード
	地図上での範囲選択による3D都市モデルのインポート
エクスポート機能	3D都市モデルの3Dファイル形式（OBJ/FBX等）へのエクスポート
地物関連機能	地物型でのフィルタリング
	地物型によるマテリアル分割
	地物の分割・結合
テクスチャ関連機能	地形3Dモデルへの航空写真および地図の貼り付け
	テクスチャの自動結合
属性関連機能	3D都市モデルの属性にアクセスするためのC# API、およびエディタ上での確認

サンプルプログラムもあるため、是非チャレンジいただきたい。

- PLATEAU SDK for Unity：https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unity
- PLATEAU SDK for Unreal：https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unreal
- PLATEAU SDKのチュートリアル：https://www.mlit.go.jp/plateau/learning/
- PLATEAU SDK技術解説書：https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/

図　PLATEAU SDKによるGISデータの可視化

図　PLATEAU SDKを用いたレースゲームの開発



5. PLATEAUに参加する

5.1. PLATEAUコンソーシアムへの参画

PLATEAUコンソーシアム（正式名称：3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化促進に関する産学官連携協議会）は、産学官の連携をさらに促進することで、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化のエコシステムを構築することを目的として2023年度に設立された。

幅広い事業者・団体から会員を募り、産学官の技術開発やユースケース開発の成果報告などの情報共有やコミュニケーションを支援している。また、ユーザー（事業会社や自治体）のニーズとソリューションカンパニー（ベンダーやコンサル）や大学・研究機関のシーズのマッチングを促進するイベントを開催しており3D都市モデルの社会実装を目指している。
また、プロジェクト活動によって生まれた成果物（データ・OSS等）の共有、発信、相互活用の促進や技術開発やユースケース開発、データ利用環境整備等の今後の取組の方向性についての討議も行っており、PLATEAUおよび3D都市モデルに関する最新の情報が共有される場として機能している。

PLATEAUコンソーシアムは、産学官、国内外、業界問わず広く会員を募集している。参画にあたり費用等は不要である。入会方法は、PLATEAU公式Webサイトのコンソーシアムページ最下部より、入会方法の案内を確認されたい。https://www.mlit.go.jp/plateau/consortium/

図　PLATEAUコンソーシアムの構成

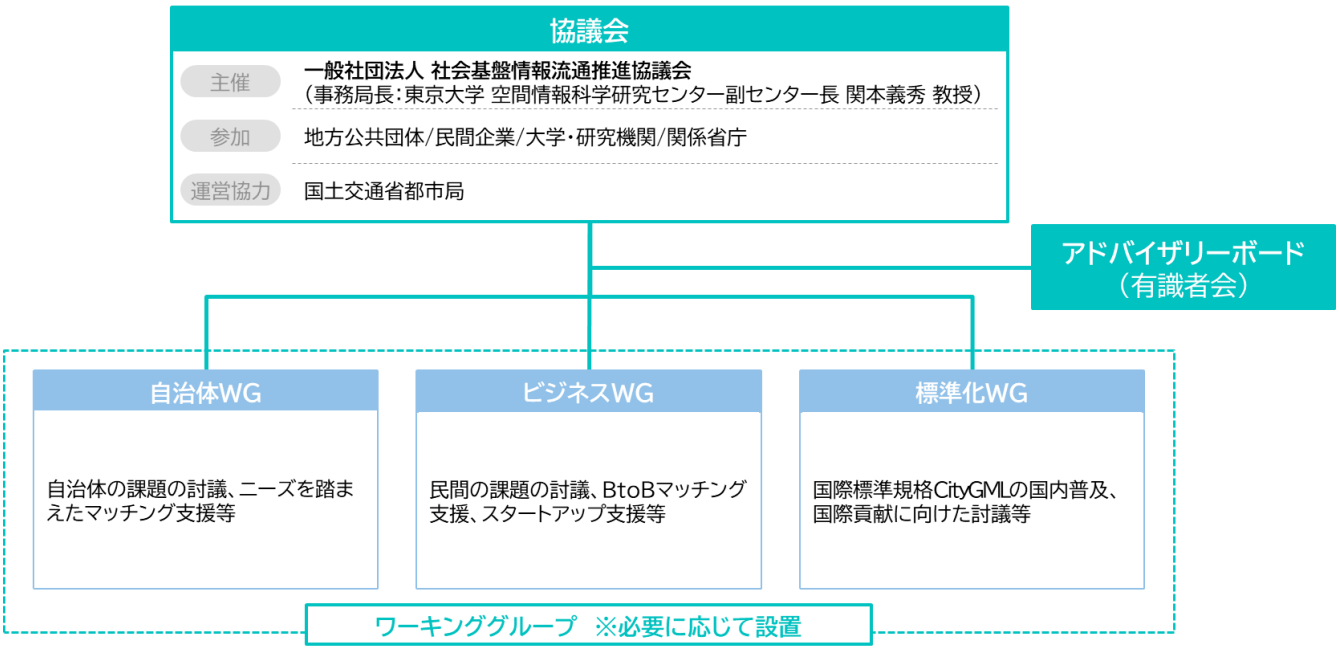


図　アドバイザリーボードメンバー概要

古橋 大地(座長)
青山学院大学
地球社会共生学部　教授
専門：空間情報

饗庭 伸
東京都立大学
都市環境学部 教授
専門：都市計画

瀬戸 寿一
駒澤大学
文学部地理学科 准教授
専門：社会地理学・
地理情報科学

豊田 啓介
東京大学
生産技術研究所 特任教授
専門：建築・都市・
スマートシティ

南 政樹
PwCコンサルティング シニアマネージャー
（元慶應義塾大学ドローン社会共創
コンソーシアム 副代表）
専門：実空間コンピューティング

吉村 有司
東京大学 先端科学技術
研究センター 特任准教授
専門：スマートシティ・
まちづくりDX

渡邉 英徳
東京大学大学院
情報学環・学際情報学府 教授
専門：情報デザイン

図　会員部門の一覧

公共

公共ユーザー部門
PLATEAUのソリューションを用いた地域の課題解決、政策改善、DX等に関心のある公共団体

民間

民間ユーザー部門
PLATEAUのソリューションを用いたビジネス創出、ビジネス改善、DX等に関心のある民間団体

スタートアップ部門
PLATEAUを用いた新規事業創出等に関心のあるスタートアップ

ソリューション部門
PLATEAUのデータを用いた新たなソリューション開発やビジネスモデル創出等に関心のある団体

デベロッパー部門
PLATEAUのデータ整備に関する技術開発や品質改善等に関心のある団体

グローバル部門
PLATEAUのデータやソリューションの海外展開やこれを用いた海外都市開発等に関心のある団体

インベスター部門
PLATEAUを用いたビジネスシーズを投資機会等としたい個人又は団体

学識

アカデミック部門
PLATEAUを用いた教育、研究、学生活動等に関心のある学識者又は団体

（参考）コンソーシアム会員一覧

2025年1月現在の会員の一覧

主催

一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会（AIGID）

運営協力

国土交通省都市局

公共ユーザー部門

北海道札幌市 / 北海道室蘭市 / 北海道帯広市 / 北海道北広島市 / 北海道更別村 / 青森県青森市 / 青森県むつ市 / 岩手県盛岡市 / 岩手県宮古市 / 宮城県仙台市 / 宮城県塩竈市 / 秋田県大館市 / 山形県大石田町 / 福島県福島市 / 福島県郡山市 / 福島県いわき市 / 福島県白河市 / 福島県相馬市 / 福島県二本松市 / 茨城県つくば市 / 茨城県鉾田市 / 茨城県境町 / 栃木県宇都宮市 / 栃木県佐野市 / 群馬県前橋市 / 群馬県桐生市 / 群馬県館林市 / 埼玉県 / 埼玉県さいたま市 / 埼玉県熊谷市 / 埼玉県行田市 / 埼玉県戸田市 / 埼玉県新座市 / 埼玉県富士見市 / 埼玉県蓮田市 / 埼玉県白岡市 / 埼玉県毛呂山町 / 千葉県千葉市 / 千葉県木更津市 / 千葉県茂原市 / 千葉県柏市 / 千葉県八千代市 / 千葉県八街市 / 千葉県芝山町 / 東京都 / 東京都中央区 / 東京都台東区 / 東京都目黒区 / 東京都渋谷区 / 東京都杉並区 / 東京都荒川区 / 東京都板橋区 / 東京都江戸川区 / 東京都八王子市 / 東京都調布市 / 東京都東村山市 / 東京都狛江市 / 東京都あきる野市 / 神奈川県横浜市 / 神奈川県川崎市 / 神奈川県相模原市 / 神奈川県横須賀市 / 神奈川県鎌倉市 / 神奈川県藤沢市 / 神奈川県茅ヶ崎市 / 神奈川県厚木市 / 神奈川県大和市 / 神奈川県寒川町 / 神奈川県箱根町 / 新潟県新潟市 / 新潟県長岡市 / 新潟県加茂市 / 富山県高岡市 / 石川県金沢市 / 石川県加賀市 / 福井県坂井市 / 山梨県甲府市 / 長野県諏訪市 / 長野県伊那市 / 長野県茅野市 / 長野県塩尻市 / 長野県佐久市 / 長野県安曇野市 / 岐阜県岐阜市 / 岐阜県大垣市 / 岐阜県高山市 / 岐阜県瑞浪市 / 岐阜県美濃加茂市 / 静岡県 / 静岡県静岡市 / 静岡県浜松市 / 静岡県沼津市 / 静岡県熱海市 / 静岡県三島市 / 静岡県掛川市 / 静岡県菊川市 / 愛知県名古屋市 / 愛知県豊橋市 / 愛知県岡崎市 / 愛知県春日井市 / 愛知県津島市 / 愛知県刈谷市 / 愛知県豊田市 / 愛知県日進市 / 愛知県北名古屋市 / 三重県四日市市 / 三重県伊勢市 / 三重県桑名市 / 三重県熊野市 / 京都府京都市 / 京都府宮津市 / 大阪府 / 大阪府大阪市 / 大阪府堺市 / 大阪府豊中市 / 大阪府池田市 / 大阪府高槻市 / 大阪府河内長野市 / 大阪府柏原市 / 大阪府摂津市 / 大阪府東大阪市 / 大阪府四條畷市 / 大阪府忠岡町 / 兵庫県 / 兵庫県尼崎市 / 兵庫県伊丹市 / 兵庫県相生市 / 兵庫県加古川市 / 兵庫県三木市 / 兵庫県たつの市 / 奈良県大和高田市 / 和歌山県和歌山市 / 和歌山県橋本市 / 鳥取県 / 鳥取県鳥取市 / 鳥取県米子市 / 鳥取県境港市 / 島根県松江市 / 島根県益田市 / 島根県隠岐の島町 / 岡山県岡山市 / 岡山県倉敷市 / 岡山県津山市 / 岡山県浅口市 / 広島県 / 広島県広島市 / 広島県呉市 / 広島県竹原市 / 広島県福山市 / 広島県府中市 / 広島県海田町 / 山口県下関市 / 山口県防府市 / 山口県岩国市 / 山口県周南市 / 徳島県徳島市 / 香川県高松市 / 香川県さぬき市 / 香川県土庄町 / 愛媛県 / 愛媛県松山市 / 愛媛県八幡浜市 / 愛媛県東温市 / 高知県南国市 / 高知県香美市 / 高知県いの町 / 福岡県北九州市 / 福岡県福岡市 / 福岡県大牟田市 / 福岡県久留米市 / 福岡県飯塚市 / 福岡県宗像市 / 福岡県古賀市 / 福岡県うきは市 / 福岡県新宮町 / 福岡県遠賀町 / 福岡県筑前町 / 佐賀県鳥栖市 / 佐賀県伊万里市 / 佐賀県武雄市 / 佐賀県基山町 / 佐賀県江北町 / 長崎県佐世保市 / 長崎県松浦市 / 長崎県波佐見町 / 熊本県熊本市 / 熊本県荒尾市 / 熊本県玉名市 / 熊本県宇城市 / 熊本県西原村 / 熊本県益城町 / 熊本県芦北町 / 大分県大分市 / 大分県日田市 / 大分県佐伯市 / 大分県臼杵市 / 大分県杵築市 / 宮崎県延岡市 / 鹿児島県薩摩川内市 / 鹿児島県南さつま市 / 沖縄県那覇市 / 沖縄県八重瀬町 / 国土交通省都市局 / 国土交通省国土地理院

民間ユーザー部門

(株)アブストラクトエンジン / (株)安藤・間 / (株)Wanget / エヌシーイー(株) / (株)ＮＴＴアーバンソリューションズ総合研究所 / (株)Ｆ・Ｃ / (一社)大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 / OpenStreet(株) / (有)岡田商会 / (株)オリエンタルコンサルタンツ / (公財)九州経済調査協会 / (株)協振技建 / (株)京風とまと / (株)草野測器社 / (一社)コード・フォー・ジャパン / 日建設計コンストラクション・マネジメント(株) / (株)サンビーム / (株)ＪＲ西日本コミュニケーションズ / (株)JTOWER / (株)JTB / (一社)社会基盤情報流通推進協議会 / (株)住宅性能評価センター / (株)ゼンリン / 損害保険ジャパン(株) / ダイナミックマッププラットフォーム(株) / 大日本ダイヤコンサルタント(株) / 大和ハウス工業(株) / 中央コンサルタンツ(株) / (特非)超教育ラボラトリーInc. / (株)千代田コンサルタント / (株)テプコシステムズ / (株)電通総研 / (株)東急コミュニティー / 東急不動産ホールディングス(株) / 東京建物(株) / (株)東洋設計 / (株)トプコンソキアポジショニングジャパン / 日鉄興和不動産(株) / 日本航空(株) / (株)日本旅行 / (株)ノア技術コンサルタント / (株)Nospare / (株)野村総合研究所 / (特非)バーチャルクロスリンク / (株)博報堂ＤＹホールディングス / ヤマハ発動機(株)・ヤマハモーターソリューション(株) / 阪急阪神不動産(株) / 東日本旅客鉄道(株) / 福島産業創生協議会 / (株)復建技術コンサルタント / (公財)不動産流通推進センター / (株)プライスハブルジャパン / (株)ブログウォッチャー / 三菱地所(株) / 森ビル(株) / (一社)横浜みなとみらい２１ / (株)りゅうぎん総合研究所

ソリューション部門

AIQVEONE(株) / アイサンテクノロジー(株) / (株)アイ・トランスポート・ラボ / アヴィバ(株) / アクセンチュア(株) / アップフロンティア(株) / (株)アブストラクトエンジン / アルテアエンジニアリング(株) / アンシス・ジャパン(株) / (株)安藤・間 / (株)いい生活 / (株)市浦ハウジング＆プランニング / (株)インフォマティクス / インフォ・ラウンジ(株)

/ (株)ウエスコ / ESRIジャパン(株) / NECネッツエスアイ(株) / エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株) / (株)エヌ・ティ・ティエムイー / (株)NTTデータ / (株)NTTドコモ / MS&ADインターリスク総研(株) / 応用技術(株) / (株)オオバ / (株)大林組 / (有)岡田商会 / (株)オリエンタルコンサルタンツ / 鹿島建設(株) / (株)角川アスキー総合研究所 / (株)かんこう / (株)キャドセンター / (株)協振技建 / (株)草野測器社 / KDDI(株) / (一財)計量計画研究所 / (株)構造計画研究所 / CodeforYOKOHAMA / 国際航業(株) / 日建設計コンストラクション・マネジメント(株) / サイバネットシステム(株) / (株)佐藤総合計画 / (株)JR東日本建築設計 / ＪＲ東日本コンサルタンツ(株) / 清水建設(株) / スターツCAM(株) / CesiumGS,Inc. / ソニーグループ(株) / ソフトバンク(株) / 損害保険料率算出機構 / ＳＯＭＰＯリスクマネジメント(株) / 大成建設(株) / 大日本ダイヤコンサルタント(株) / (株)竹中工務店 / ダッソー・システムズ(株) / (株)長大 / TIS(株) / 東亜建設技術(株) / (株)東急コミュニティー / (株)東京設計事務所 / 東邦レオ(株) / (株)ドコモ・インサイトマーケティング / TOPPAN(株) / (株)トプコンソキアポジショニングジャパン / (株)ナカノアイシステム / (株)日建設計 / (株)日建設計総合研究所 / 日本イーエスアイ(株) / 日本工営(株) / 日本電気(株) / (特非)日本不動産カウンセラー協会 / ニューラルグループ(株) / パーコペディアジャパン(株) / (特非)バーチャルクロスリンク / パシフィックコンサルタンツ(株) / PacificSpatialSolutions(株) / (株)パスコ / (株)パソナ / パナソニック(株) / 早川都市計画(株) / (株)ビーライズ / (株)ファイブテクノロジー / (株)フォーラムエイト / (株)福山コンサルタント / (株)フジタ / (株)フジヤマ / 復建調査設計(株) / ボストン・コンサルティング・グループ合同会社 / (株)ホロラボ / MapboxJapanG.K. / (株)マップル / (株)三菱地所設計 / (株)三菱総合研究所 / 三菱電機(株) / ミネベアミツミ(株) / (株)ラック / (株)理経 / (株)リコー / (株)WorldLink＆Company

スタートアップ部門

アダワープジャパン(株) / (株)アナザーブレイン / (株)いい生活 / IntelligenceDesign(株) / (株)Wanget / (株)エイト日本技術開発 / (有)岡田商会 / (株)Gugenka / (株)くわや / (株)PsychicVRLab / (株)佐藤総合計画 / 四恩システム(株) / ６２Complex(株) / (株)シナスタジア / SingulaChain(株) / (株)SimpleHonesty / (株)SYMMETRY / schemeverge(株) / (株)STYLY / (株)センシンロボティクス / (株)トラジェクトリー / (株)ナイトレイ / 早川都市計画(株) / (株)プライスハブルジャパン / PLATEAUWindow's / (株)ヘキメン / (株)ヘリシティ / HollowByte合同会社 / (株)MIERUNE / (株)MESON / (株)Eukarya / LOOVIC(株)

デベロッパー部門

朝日航洋(株) / アジア航測(株) / アップフロンティア(株) / (株)いい生活 / (株)Ｆ・Ｃ / (株)キャドセンター / KDDIアジャイル開発センター(株) / 国際航業(株) / (株)佐藤総合計画 / 中日本航空(株) / (株)ナカノアイシステム / (特非)日本PFI・PPP協会 / (株)パスコ / (株)マップル / 三菱電機(株) / ミネベアミツミ(株) / (一財)リモート・センシング技術センター

グローバル部門

(株)協振技建 / (株)StockGraphy / CesiumGS,Inc. / (株)パスコ / (株)プライスハブルジャパン / ミネベアミツミ(株)

インベスター部門

なし

アカデミック部門

西田司（東京理科大学創域理工学部 准教授） / 饗庭伸（東京都立大学都市環境学部 教授） / 荒川豊（九州大学大学院システム情報科学研究院 教授） / 内田奈津子(フェリス女学院大学全学教養教育機構　講師) / 大塚信也（九州工業大学工学研究院電気電子工学研究系　教授） / 大西鮎美（神戸大学大学院工学研究科 助教） / 門脇耕三（明治大学理工学部 准教授） / 川合康央（文教大学情報学部 教授） / 瀬戸寿一（駒澤大学文学部地理学科 准教授） / 高田百合奈（青山学院大学地球社会共生学部　助教授） / 田中和哉（政策研究大学院大学　政策研究院　リサーチ・フェロー） / 全邦釘（東京大学工学系研究科 特任准教授） / 寺田努（神戸大学大学院工学研究科 教授） / 豊田啓介（東京大学生産技術研究所 特任教授） / 古橋大地（青山学院大学地球社会共生学部 教授） / 南政樹（PwCコンサルティング合同会社 シニアマネージャー、元慶應義塾大学ドローン社会共創コンソーシアム 副代表） / 湯村翼（北海道情報大学情報メディア学部 准教授） / 吉村有司（東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授） / 渡邉英徳（東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授）

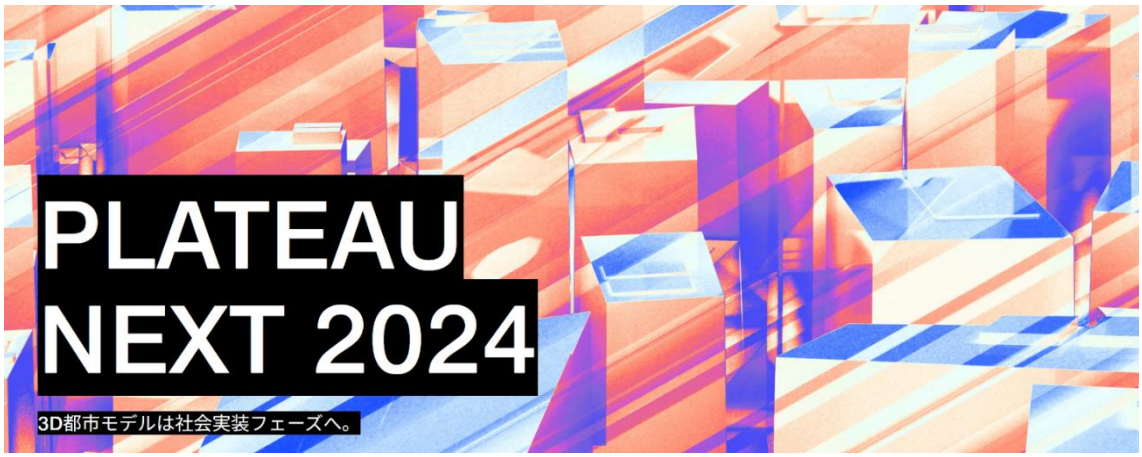
5.2. PLATEAUイベントへの参加

PLATEAUは実証フェーズを超え、本格的な社会実装のフェーズに入っている。この動きを加速させるため、「PLATEAU NEXT」として一連のコミュニティイベント（アプリコンテスト、ライトニングトーク、ハッカソン、ハンズオン、ピッチイベントなど）を開催し、様々な切り口で開発者コミュニティにおける実装のきっかけ作りを進めている。様々な領域のエンジニアやクリエイター、プランナーが自らの技術と3D都市モデルのデータを組み合わせ、新たな価値を生み出すことを期待する。
さらに、「PLATEAU Hack Challenge 2024 for ルーキー」といったPLATEAUを利用した「初めてのプロトタイピング」に挑戦する人向けのオンラインハッカソンを開催、事前のオンラインハンズオンや当日のテクニカルサポートなどを提供し、初学者向けの活動も充実している。

各種イベントへの参加は、PLATEAU NEXT公式サイトを確認されたい。
https://www.mlit.go.jp/plateau-next/

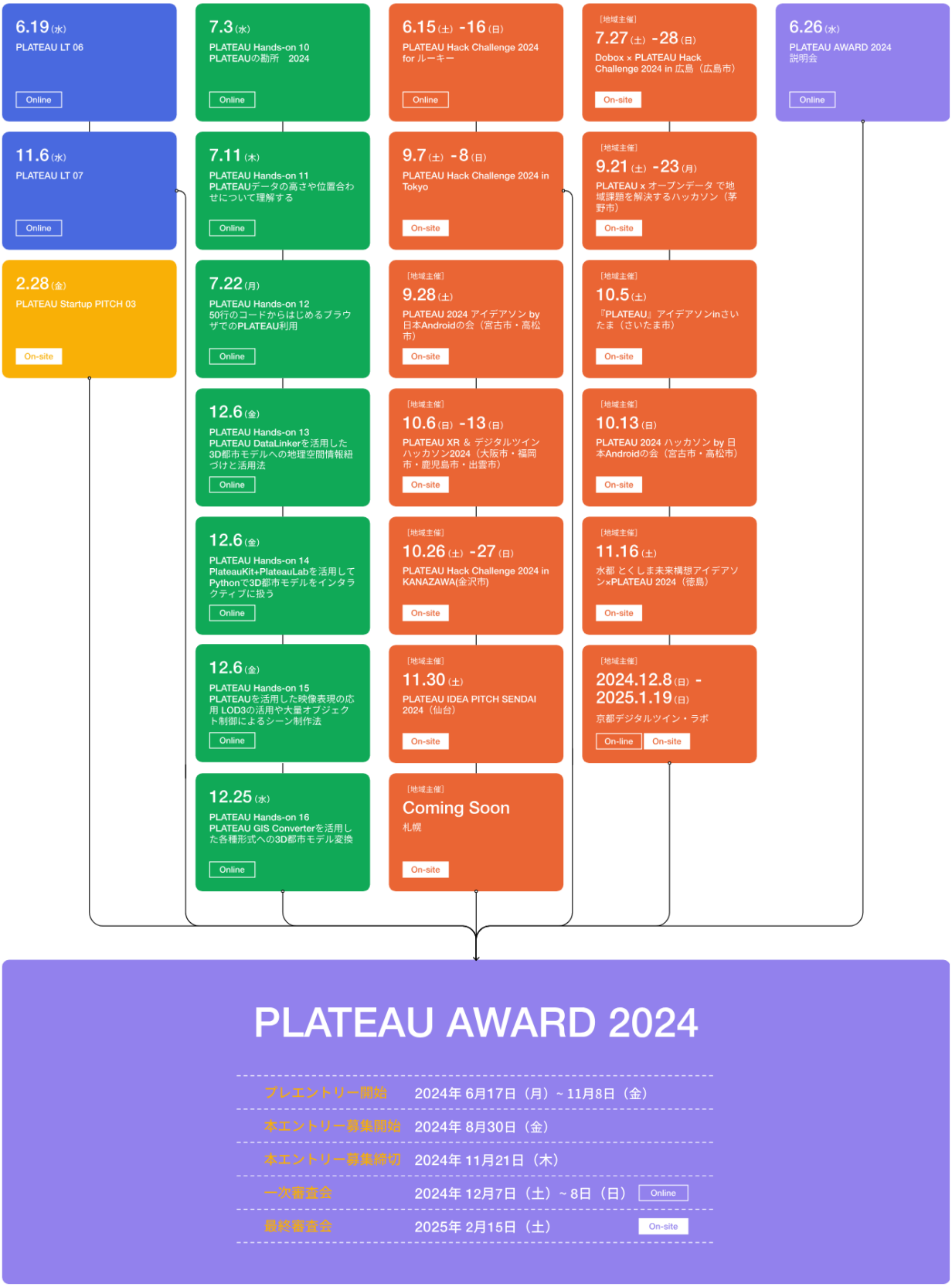
INTRODUCTION

国土交通省では、2020年度からProject PLATEAU（プラトー）として、都市デジタルツインの社会実装プロジェクトを開始しました。
「3D都市モデル」と呼ばれる都市空間のデジタルツインデータの整備・活用・オープンデータ化の取組みを進め、現在、様々な領域における新たなサービスやイノベーションの創出が進みつつあります。
2024年度のPLATEAUは、実証フェーズを超え、本格的な社会実装のフェーズに入りました。この動きを加速させるため、アプリコンテスト、ライトニングトーク、ハッカソン、ハンズオン、ピッチイベントなど様々な切り口で開発者コミュニティにおける実装のきっかけ作りを進めていきます。
様々な領域のエンジニアやクリエイター、プランナーが自らの技術と3D都市モデルのデータを組み合わせ、新たな価値を生み出すことを期待しています。



PLATEAUでは、年間を通して様々なイベントを実施している。各イベントは独立して参加可能なので、是非参加頂きたい。

図　PLATEAU主催のイベント全体像（2024年度）



PLATEAU AWARD

- 年度ごとに各種開発イベントの集大成として、国土交通省が主催する3D都市モデルの開発コンテスト
- 様々な領域のエンジニアやクリエイター、プランナー、学生などが自らの技術と3D都市モデルのデータを組み合わせ、新たな価値を生み出すことで、オープンデータである3D都市モデルのまだ見ぬ可能性を引き出すことを期待
- PLATEAU AWARDが募集するものは、PLATEAUがオープンデータとして提供する3D都市モデルを活用した新たなアプリケーションやコンテンツ、エクスペリエンス
- 個人または企業、教育機関・研究機関、行政機関、チーム（メンバー数や年齢等の制限はなし）まで広く募集

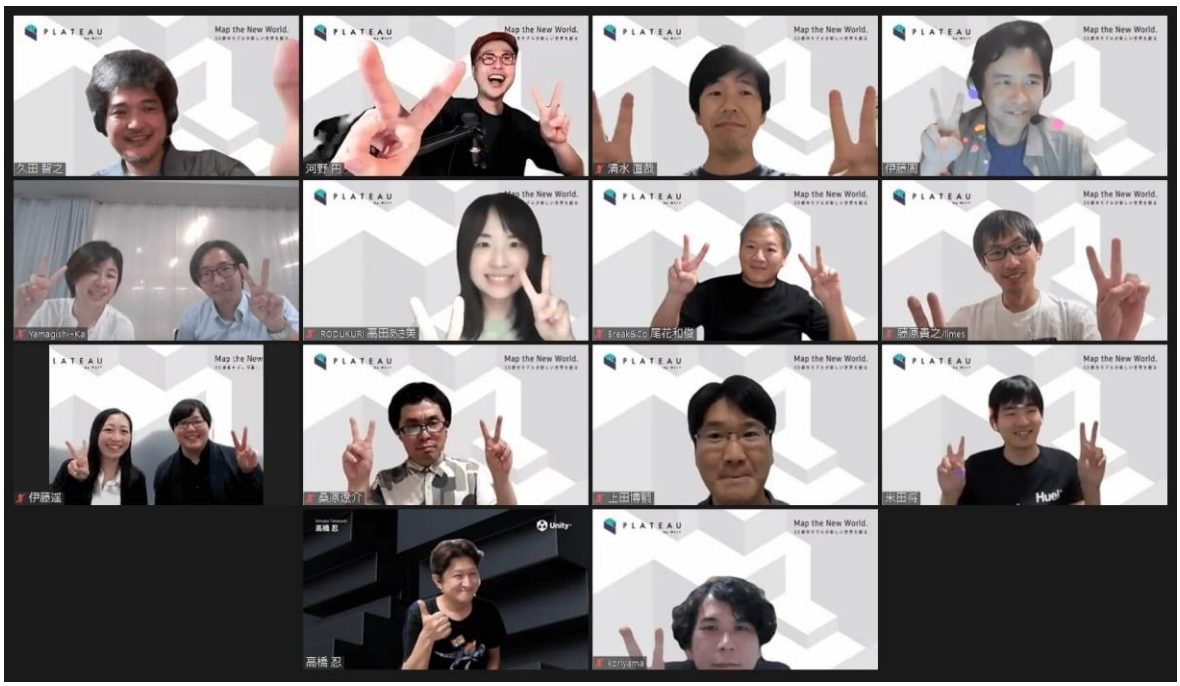
PLATEAU Hack Challenge

- オープンデータである3D都市モデルのポテンシャルを引き出すため、国土交通省が主催するハッカソンイベント
- エンジニア、デザイナー、プランナー、マーケターなどが即席チームを作り、それぞれの技術やアイデアを持ち寄り、限られた時間内に集中して新しい商品・サービス・システム・アプリケーションなどを開発し、成果を競う

PLATEAU STARTUP Pitch

- スタートアップ企業を中心とした、ビジネスの領域で3D都市モデルを活用したサービスやプロダクトを生み出し、コミュニティを広げるためのピッチイベント
- ピッチ登壇に加えて、デモ体験などブースを出展し、参加者と交流することが可能

PLATEAU LT



- PLATEAUの3D都市モデルを活用する個人、企業、自治体などに向けたライトニングトーク（短時間に集約して簡潔にプレゼンする形式）イベント
- PLATEAU AWARD 受賞者を含む様々な方のプロダクトや技術ナレッジをシェア

PLATEAU Hands-on

- PLATEAUに興味を持っている方や、今後のPLATEAU関連イベントへの参加を迷っている方々を対象に、PLATEAUでどんなことができるのかヒントをつかんでいただくためのハンズオンワークショップ
- PLATEAU AWARD受賞者やPLATEAU ADOVOCATEメンバーも登壇し、レクチャー実施

5.3. Project PLATEAUへの参画

RFI（情報提供依頼）

PLATEAUでは、2023年度より3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の各取組において、広く産学民の多様な主体が有する先進的・独創的なアイデア、知見・ノウハウ、技術・サービス等を募集し、幅広いプレイヤーとの議論のきっかけとなるよう、RFI（情報提供依頼）を年2回実施している。

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和６年５月９日
都　　市　　局
国際・デジタル政策課

日本全国の 3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進する
Project PLATEAU 2024 年度のプロジェクトを発表

都市デジタルツインの実現を目指し、国土交通省が様々なプレイヤーと連携して推進する Project PLATEAU（プラトー）では、2020 年度のスタート以降、全国で官民による 3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の取組を進めてきました。2023 年度までに 3D 都市モデルの整備範囲は全国約 200 都市に拡大するとともに、官民の多様な領域でユースケースが開発され、その社会実装が進んでいます。

2024 年度は、3D 都市モデルを活用した社会変革やサービス創出の実現を目指し、これらの取組みをさらに発展させていきます。

Project PLATEAU　これまでの取組み

Project PLATEAU では、これまで全国で 3D 都市モデルを整備するとともに、これをオープンデータとして公開することで、多様な分野におけるオープン・イノベーションを促進してきました。

2023 年度は、標準仕様の拡張、多様な分野のユースケース開発、3D 都市モデルの可視化環境や利用環境の構築、地方公共団体によるデータ整備・活用支援等に取り組んできました。

2024 年度の取組み方針

Project PLATEAU は 2024 年度も引き続き、地方公共団体、民間事業者、地域コミュニティ等の多様なプレイヤーによる取組みを後押しし、3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の自律的な発展を目指して、更なる取組みの深化を図っていきます。

具体的には、データカバレッジの拡大、ユースケースの開発・社会実装、3D 都市モデルの活用コミュニティの形成、オープン・イノベーション創出、3D 都市モデルの整備・活用に係るエコシステムの構築等のテーマのもとに、約 30 件のプロジェクトを採択しました。地方公共団体は約 60 団体が参画し、データ整備範囲は約 250 都市に拡大する予定です。詳細は参考資料をご覧ください。

参考資料

FY2025 Project PLATEAU ｜ RFI(情報提供依頼)#1

PLATAEU RFI(Request for Information)｜情報提供依頼#1とは？

PLATEAU RFI(情報提供依頼)は、PLATEAUのプロジェクト価値を高めていくための産学官連携施策の一つです。

- 国土交通省都市局が様々な主体と連携して進めるProject PLATEAUでは、都市デジタルツインの実装モデル「3D都市モデル」の整備・活用・オープンデータ化を推進していくため、幅広い産学官のプレイヤーとの連携を重視しています。
- 都市デジタルツインは新しい技術であり、これを社会実装していくためには、どのような施策や技術開発、スキーム構築などが必要なのか、幅広いプレイヤーとの議論していくことが重要です。
- そこで、Project PLATEAUでは、RFI(情報提供依頼)として、次年度以降のプロジェクト採択に向けたアイディアや提案を募集します。
- RFI#1では、FY2025のテーマに応じた基本的なアイディエーションを行うことを狙った「提案募集型」RFIを行います。RFI#2ではこれを基にして作成したプロジェクト原案に対する技術提案を募集する「意見募集型」RFIを行っていく予定です。ぜひご参加ください。

スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2025年度に向けた動き			RFI #1 6/24(月)～7/26(金) ※2025年度に向けた企画提案の情報提供依頼		ヒアリング ※RFIをもとに具体的な技術提案の情報提供依頼	RFI #2	ヒアリング ※企画競争提案の説明会及びRFIをもとにしたヒアリング等		公示手続等 ※2025年度企画競争提案に関する手続き等			

※今後変更される可能性があります。

MLIT　Copyright © 2022 by MLIT. All rights reserved.　1

PLATEAU事業への参加されたい方は、是非応募頂きたい。なお、RFIは国土交通省よりプレスリリースされる。PLATEAUコンソーシアムからも情報発信するため、コンソーシアムにも参画いただきたい。

PLATEAU補助制度

また、3D都市モデル活用・データ整備促進に向けて、自治体及び民間事業者向けに補助金による支援を行う都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）も実施している。

都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータルから様々な情報が発信されているため、是非ご確認いただきたい。

図　都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル

https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/plateau_hojo.html

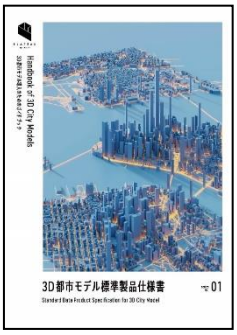
図　ユースケース開発ガイド － 自治体編

https://www.mlit.go.jp/plateau/file/libraries/doc/plateau_1st_step_ver01.pdf

6. PLATEAUリンク集

6.1. 3D都市モデル導入のためのガイドブック

https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/



3D都市モデル標準製品仕様書

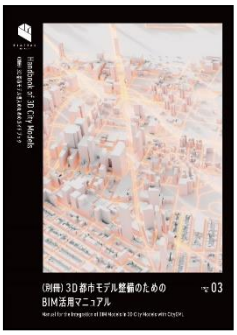
国際標準規格であるCityGMLによる3D都市モデル整備のための標準製品仕様

3D都市モデル標準作業手順書

国際標準規格であるCityGMLによる3D都市モデル整備のための標準作業手順

3D都市モデル整備のためのBIM活用マニュアル

BIM（建築情報モデル）を活用して屋内モデルを3D都市モデルに統合するためのマニュアル



（別冊）3D都市モデルとの連携のためのBIMモデルIDM・MVD

情報伝達マニュアル（IDM）・モデルビュー定義（MVD）

3D都市モデルを活用した災害リスク情報の可視化マニュアル

災害リスク情報を3D都市モデルと統合表示するためのデータ作成・可視化・実装手順等のマニュアル

3D都市モデルのデータ変換マニュアル

CityGMLを3DCG形式（OBJ/FBX/datasmith)及びBIM形式（IFC）へ変換するためのマニュアル

ビジュアルアイデンティティ（VI）マニュアル

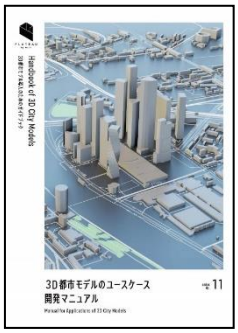
Project PLATEAUのロゴマーク及びイメージカラーを利用する場合のマニュアル

PLATEAU VIEW構築マニュアル

3D都市モデルの可視化環境構築及びデータ重畳のための仕様・手順等のマニュアル

3D都市モデル整備のための測量マニュアル

3D都市モデル（建物モデル）の整備のための標準的な測量作業マニュアル



3D都市モデルのユースケース開発マニュアル

ユースケース開発のための基本的考え方・事例紹介・技術導入手順等のマニュアル

PLATEAU SDK技術解説書

PLATEAU SDKの機能と仕様、利用手順を解説したマニュアル

6.2. PLATEAU公式ツール

分類	リポジトリ名	説明
全般	plateau-naming-docs	https://github.com/Project-PLATEAU/plateau-naming-docs Project PLATEAUとして公開するオープンデータのダウンロードファイル命名規則及びフォルダ構成規則
	plateau-streaming-tutorial	https://github.com/Project-PLATEAU/plateau-streaming-tutorial PLATEAU配信サービス利用のためのチュートリアル
	PLATEAU-Terria-web-app	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-Terria-web-app 「Terriaを用いたPLATEAU VIEWでの経路検索Webアプリの作り方」のサンプルプロジェクト
	storytelling-webgis-sample	https://github.com/Project-PLATEAU/storytelling-webgis-sample ストーリーテリング型 WebGIS 「PLATEAU Past & Future for Action」
PLATEAU SDK for Unity	PLATEAU-SDK-for-Unity	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unity 3D都市モデルをUnityで扱うためのツールキット
	PLATEAU-SDK-for-Unity-GameSample	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unity-GameSample PLATEAU SDK for Unityを利用したGISサンプルアプリ
	PLATEAU-SDK-for-Unity-GISSample	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unity-GISSample PLATEAU SDK for Unityを利用したゲームのサンプルアプリ

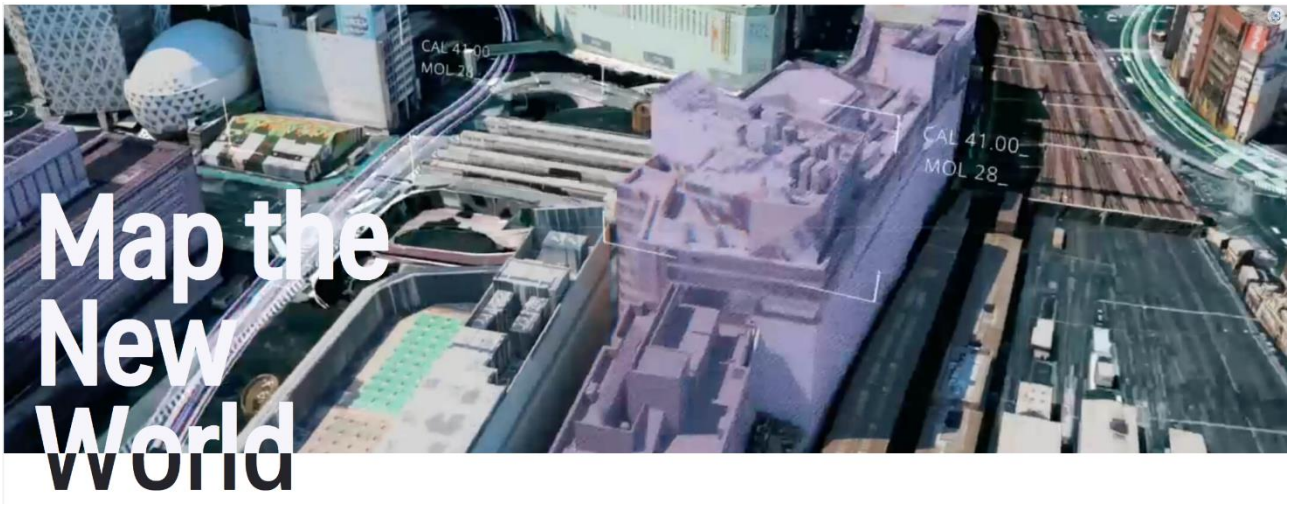
分類	リポジトリ名	説明
	PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unity	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unity PLATEAU SDK for Unityでの開発を支援するツールキットアドオン
	PLATEAU-SDK-AR-Extensions-for-Unity	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-AR-Extensions-for-Unity PLATEAU SDK for UnityでのARアプリケーション開発を支援するツールキットアドオン
	PLATEAU-SDK-Maps-Toolkit-for-Unity	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-Maps-Toolkit-for-Unity PLATEAU SDK for Unityでの空間解析、可視化、建築情報との連携など、地図アプリ開発等を支援するツールキットアドオン
	PLATEAU-Toolkits-Sample-UrbanScape	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-Toolkits-Sample-UrbanScape PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unityを使ったサンプルプロジェクト（ビューアー）
	PLATEAU-Toolkits-Sample-CityRescueMultiPlay	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-Toolkits-Sample-CityRescueMultiPlay PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unityを使ったサンプルプロジェクト（マルチプレイ）
	PLATEAU-Toolkits-Sample-ARTreasureMap	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-Toolkits-Sample-ARTreasureMap PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unityを使ったサンプルプロジェクト（ARガイド）
	PLATEAU-Toolkits-Sample-ARCityMiniature	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-Toolkits-Sample-ARCityMiniature PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unityを使ったサンプルプロジェクト（ARマーカー）
PLATEAU SDK for Unreal	PLATEAU-SDK-for-Unreal	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unreal 3D都市モデルをUnreal Engineで扱うためのツールキット
	PLATEAU-SDK-for-Unreal-GISSample	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unreal-GISSample PLATEAU SDK for Unrealを利用したGISサンプルアプリ
	PLATEAU-SDK-for-Unreal-GameSample	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-for-Unreal-GameSample PLATEAU SDK for Unrealを利用したゲームのサンプルアプリ

分類	リポジトリ名	説明
PLATEAU QGIS Plugin	plateau-qgis-plugin	https://github.com/Project-PLATEAU/plateau-qgis-plugin 3D都市モデルを読み込むためのQGISプラグイン
PLATEAU VIEW	PLATEAU-VIEW-3.0	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-VIEW-3.0 PLATEAU VIEW 3.0のソースコード
	PLATEAU-WebAR	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-WebAR PLATEAU WebAR（プロトタイプ版）のソースコード
	PLATEAU-VIEW-2.0	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-VIEW-2.0 PLATEAU VIEW 2.0のソースコード
	PLATEAU-VIEW-1.1	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-VIEW-1.1 PLATEAU VIEW 1.1で実現した機能を含む、Terria Mapのパッケージ
	plateau-view-docker-example	https://github.com/Project-PLATEAU/plateau-view-docker-example Dockerを利用したPLATEAU VIEW1.1構築のチュートリアル
	plateau-catalog-generator	https://github.com/Project-PLATEAU/plateau-catalog-generator PLATEAU VIEWのカタログを生成するためのシステム
パーサー	PlateauUtils	https://github.com/Project-PLATEAU/PlateauUtils 3D都市モデルを扱うためのPythonライブラリ
	libplateau	https://github.com/Project-PLATEAU/libplateau 3D都市モデルを扱うためのC++ライブラリ
モデル加工・編集	PLATEAU-Builder	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-Builder 3D都市モデル標準製品仕様に準拠したCityGMLデータの編集・品質検査を行うツール
データ変換	PLATEAU-GIS-Converter	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-GIS-Converter 3D都市モデル（CityGML）を他の各種GISデータ形式に変換するGUIツール
	PLATEAU-IFC-to-CityGML2.0-LOD4	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-IFC-to-CityGML2.0-LOD4 PLATEAU標準のCityGML2.0 建築物モデル（LOD4）へのデータ変換テンプレート
	plateau2minecraft	https://github.com/Project-PLATEAU/plateau2minecraft 3D都市モデルをマインクラフトに取り込み可能なデータ形式に変換するためのツール
	PLATEAU-LinkedOpenData-Tools	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-LinkedOpenData-Tools 3D都市モデルをLinked Open Data（RDF形式）に変換し、配信するシステム

分類	リポジトリ名	説明
	Data-Conversion-Manual-for-3D-City-Model	https://github.com/Project-PLATEAU/Data-Conversion-Manual-for-3D-City-Model 3D都市モデル（CityGML形式）から FBX/OBJ/Datasmith/IFC形式へ変換のためのFME Desktop のワークスペース
	3D-CityModel-ConversionTools-for-ArcGIS	https://github.com/Project-PLATEAU/3D-CityModel-ConversionTools-for-ArcGIS 3D都市モデルを、ArcGIS で利用可能なファイルジオデータベースへ変換するツール
	CityGML-Room-Importer-Rhino-GH	https://github.com/Project-PLATEAU/CityGML-Room-Importer-Rhino-GH CityGMLクラスRoomをRhinocerosに書き出すための Grasshopperファイル
	FMEscript-CityGML-to-3DTiles	https://github.com/Project-PLATEAU/FMEscript-CityGML-to-3DTiles FME Desktopを用いたCityGMLから3DTilesへの変換テンプレート
モデル生成	3D-City-Model-Generator	https://github.com/Project-PLATEAU/3D-City-Model-Generator 3D都市モデル生成シミュレータ
	Auto-Create-bldg-lod2-tool	https://github.com/Project-PLATEAU/Auto-Create-bldg-lod2-tool LOD2建築物モデル自動生成ツール
	Auto-Create-tran-lod1-2-tool	https://github.com/Project-PLATEAU/Auto-Create-tran-lod1-2-tool LOD1-2道路モデル自動作成ツール
ID連携	RealEstateID-matching-system	https://github.com/Project-PLATEAU/RealEstateID-matching-system 3D都市モデルへ不動産IDを付与するツール
	PLATEAU-generator-for-spatialid	https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-generator-for-spatialid PLATEAUのための空間ID生成ツール

6.3. PLATEAUその他リンク

サイト名	概要
公式Webサイト	https://www.mlit.go.jp/plateau/ PLATEAU公式サイト
公式Xアカウント	https://twitter.com/ProjectPlateau 公式サイトの新着情報を中心とプロジェクトの進行プロセスを発信
公式Youtubeチャネル	https://www.youtube.com/channel/UC3glW7rxyDRCQLq-Jfmx5SA イベントやチュートリアル、3D都市モデル紹介の動画などを掲載
公式GitHubアカウント	https://github.com/Project-PLATEAU Project PLATEAUで開発されたユースケースのシステムや3D都市モデルを扱うためのツールのソースコード等を掲載
PLATEAU VIEW	https://plateauview.mlit.go.jp/ 3D都市モデルや関連オープンデータを確認できるWebGISサイト
G空間情報センター 3D都市モデル（Project PLATEAU）ポータルサイト	https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/plateau 3D都市モデルの公式ダウンロードサイト
PLATEAU 補助制度ポータル	https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/plateau_hojo.html 地方公共団体における3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するための補助制度に関するポータルサイト
PLATEAU NEXT	https://www.mlit.go.jp/plateau-next/ PLATEAU関連のイベント（ハッカソン等）の案内サイト
ASCII STARTUP Project PLATEAU関連記事まとめサイト	https://ascii.jp/featuredarticles/3000732/ 角川アスキーが運営するスタートアップ関連情報発信サイト。 Project PLATEAU関連のハッカソン・アイデアソンの記事あり。



Map the New World

わたしたちは今、かつてないほどDXを求められる環境に身を置いている。これまでは現実空間のなかでバラバラに存在していた情報が、サイバースペース上に集約され、即座に多くの人がアクセスできるようになる。そこでは、個人が瞬時に必要なものごとを探り当て、視覚的に理解し、素早く判断することができるようになるだろう。こうした世界が実現されれば、「各所に判断を仰ぐ」「分散するデータを確認する」といった作業に追われていたわたしたちの日々は、今よりもずっとシンプルで、豊かなものになるはずだ。

PLATEAUで始められるDXはとても簡単だ。住んでいる場所を三次元化する。静止画が動画になったとき、はじめて把握できるものごとがあったように、二次元の地図が三次元になる、その転換こそが、多くの発見をもたらしてくれる。

やりたいことが、実際にできる。これがDXの本懐だ。本書をきっかけに、「我慢していた大変なこと」「諦めていたいろいろな事情」を突破するためのツールとして、PLATEAUのことを知ってもらえれば幸いである。

PLATEAU Guidebook

初学者のためのPLATEAUガイドブック

第5.0版

令和7年3月　発行

国土交通省 都市局

PLATEAU by MLIT